

秋田市

# 久保田城跡

—千秋久保田町マンション建設工事に伴う発掘調査報告書—

2022. 4 秋田市教育委員会

秋田市

# 久保田城跡

—千秋久保田町マンション建設工事に伴う発掘調査報告書—

2022. 4 秋田市教育委員会

## 例　　言

- 1 本報告書は、千秋久保田町マンション建設工事に伴う久保田城跡（秋田市千秋久保田町4-173、4-174、4-175、4-47）の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本事業は、事業主体者が株式会社タカラレーベン東北、業務受託者が株式会社イビソク、調査担当者が秋田市教育委員会（秋田市観光文化スポーツ部文化振興課）となり実施した。本発掘調査経費について、事業主体者である株式会社タカラレーベン東北が負担した。
- 3 本報告書の執筆は、第1・2・4章を神田和彦（秋田市）、第3章第1～3節を佐藤好司（株式会社イビソク）、第3章第4節を石田純子（株式会社イビソク）が行った。
- 4 発掘調査写真は佐藤好司、遺物写真的撮影は神田和彦と石田純子が行った。
- 5 出土遺物および記録類は、秋田市教育委員会が一括して保管する。
- 6 発掘調査、整理作業の過程で下記の各氏より指導、助言を賜った。（敬称略・順不同）  
文化庁、秋田県教育委員会文化財保護室、五十嵐一治、久保田城址歴史案内ボランティアガイドの会、小国裕実

## 凡　　例

- 1 図中の方位は、各図面に方位を示した。
- 2 図中の地図には、秋田市管内図1/50,000、同1/25,000、都市計画図1/2,500を使用した。
- 3 本文中の遺物については、土器・陶磁器・石製品・ガラス製品・瓦・錢貨の基礎分類ごとに記述した。
- 4 実測図の中で、青磁は「青磁」の文字と [ ] 、鉄軸は「鉄軸」の文字と [ ] の網掛けで図示し、白磁は「白磁」の文字のみで示した。また、赤瓦は [ ] 、いぶし瓦は [ ] の網掛けで図示した。
- 5 遺物実測図の縮尺は、土器・陶磁器・石製品・ガラス製品は1/3、瓦は1/4、錢貨は1/1とした。
- 6 遺物写真的縮尺は、土器・陶磁器・石製品・ガラス製品は約1/2、瓦は約1/4、錢貨は約1/1とした。

## 目 次

### 例言・凡例

第1章 調査の概要.....	1
第1節 調査の経過.....	1
第2節 発掘作業の経過.....	1
第3節 整理作業の経過.....	2
第2章 遺跡の位置と環境.....	4
第1節 地理的環境.....	4
第2節 歴史的環境.....	4
(1) 周辺の遺跡.....	4
(2) 久保田城跡の概要.....	5
(3) 久保田城跡における調査地点の状況について.....	5
第3章 調査の方法と成果.....	14
第1節 調査の方法.....	14
第2節 層序.....	16
第3節 遺構.....	16
第4節 遺物.....	32
第4章 まとめ.....	41
第1節 出土遺物と各遺構・各堆積層の年代について.....	41
第2節 出土瓦について.....	41
第3節 調査地の利用状況について.....	43
第4節 おわりに.....	46
写真図版.....	48
報告書抄録.....	57

## 第1章 調査の概要

### 第1節 調査の経過

株式会社タカラレーベン東北は、千秋久保田町マンション建設工事を計画した。しかし、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「久保田城跡」に所在することから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。マンション建設計画は、既存の旧「ホテルハワイ」を解体し、北側および北東側の宅地も含めて、開発する予定である。協議の結果、計画地北側および北東側の宅地部分は、久保田城跡の土壘が存在する可能性が高いことから、令和3年6月11日付けで文化振興課に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。これを受けた秋田市教育委員会は、分布調査による現況確認と試掘による範囲確認調査を令和3年7月8~9日に実施した。調査の結果、久保田城跡の土壘と考えられる盛土が確認された。これを受けて令和3年7月16日付けで株式会社タカラレーベン東北より秋田市教育委員会に土木工事等のための発掘調査に関する届出書（文化財保護法第93条）が提出された。これに対し、範囲確認調査の結果に基づき、令和3年7月21日付け教生-836で、秋田県教育委員会より「工事による掘削が埋蔵文化財に及ぶ場合」に該当するため、事業予定地に対して発掘調査条件の通知があった。なお、既存の旧「ホテルハワイ」の部分での工事は、久保田城跡の堀跡部分に相当することから、別途土木工事等のための発掘に関する届出書（文化財保護法93条）を提出し、基礎解体時に立会調査を行い、状況確認後、埋蔵文化財保護の対応を検討することとしている。

協議の結果、事業主体者が株式会社タカラレーベン東北、業務受託者が株式会社イビソク、調査担当が秋田市教育委員会（担当課：秋田市観光文化スポーツ部文化振興課）となり、令和3年11月30日までに発掘調査を完了し、引き続き整理作業を行い、令和4年4月30日まで整理作業を行うこととした。また、費用負担については、株式会社タカラレーベン東北が負担し、発掘作業・整理作業について業務受託者に委託することとした。株式会社タカラレーベン東北による業者選定、入札の結果、業務受託者は株式会社イビソクとなり、令和3年9月3日付けで株式会社タカラレーベン東北と株式会社イビソクは契約書を取り交わした。また、令和3年9月10日付けで事業主体者の株式会社タカラレーベン東北、調査担当者の秋田市教育委員会、業務受託者の株式会社イビソクの三者で発掘調査に関する協定書を結び、事業を実施した。

### 第2節 発掘作業の経過

#### 発掘作業

令和3年9月20日に調査地の付近にプレハブを設置し、機材搬入、調査グリッドの測量を実施した。9月22日にA区表土剥ぎ、9月24日にB区表土剥ぎを行った。9月28日より作業員の手掘りによる作業を開始し、A区のI層（表土）・II層（近代造成土）の除去を開始し、遺構精査を行った。10月6日、A区の土壘上に大きな搅乱が確認され、これ以後、搅乱孔の掘り下げを開始した。10月14日、A区土壘上の搅乱の範囲を確認した。10月17日からはA区調査区北側の土壘部のII層（近代造成土）・III層（近世堆積層）を除去しつつ、IV層（土壘盛土）の検出を行った。10月29日、A区北側のIII層を除去し、土壘の形状を検出した状況となり、11月1日にA区の個別の写真撮影を行った。11月2日、A区検出の土壘にサブトレントを南北に2本設定し、土壘の構築状況を確認した。11月3日からB区のI層（表土）・II層（近代造成土）を除去し遺構精査を行った。その結果、近世整地層などではなく、II層（近代造成土）の直下は、III層（地山粘土層）であった。11月16日からIII層（地山粘土層）に掘り込まれた搅乱の除去を行った。11月18日、久保田城址歴

## 第1章 調査の概要

史案内ボランティアの会を対象に、現地説明会を行った。11月19日、A・B区の全景写真撮影を行った。11月20日より造構測量を行い、11月22日から25日にかけてB区にサブトレーンチを設定し、V-5・6層（段丘疊層）まで確認し、土層断面等の記録を行い、11月26日に調査地を株式会社タカラレーベン東北に引き渡し、11月30日に重機・仮設事務所等の撤去を行い、現場作業を終了した。

### 発掘作業体制

調査期間 令和3年9月20日～11月30日

調査面積 312m<sup>2</sup>

事業主体者 株式会社タカラレーベン東北

調査担当者秋田市教育委員会

調査体制 秋田市観光文化スポーツ部文化振興課

文化振興課 課長 岩山 健

文化財担当

副参事 岡部友明

主席主査 神田和彦（主務者：調査担当）

主席主査 滝井田宏彰

主査 田中圭紅

主査 斎藤和敏

主事 齊藤志帆子

業務受託者 株式会社イビソク

調査員 佐藤好司 調査補助員 石田純子

調査作業員 加賀谷久仁男、山石正、佐々木登、富野三千雄、佐藤敏昭、照井稔、伊藤眞耕

## 第3節 整理作業の経過

### 整理作業

発掘調査に引き続き、令和3年12月1日より整理室を設置し、出土遺物等の室内整理作業を実施した。洗浄（令和3年12月上旬）、接合（令和3年12月中旬）、実測（令和3年12月中旬～令和4年1月下旬）、造構図面作成（令和3年12月～令和4年1月下旬）、注記（令和4年2月中旬～令和4年3月上旬）、遺物トレス（令和4年1月～2月上旬）、遺物レイアウト（令和4年2月）、造構図面レイアウト（令和4年2月）、写真撮影（令和4年1月）、編集・執筆作業（令和4年2～3月）を実施し印刷所へ入稿した。令和4年4月30日までに校正・製本・印刷物の送付を行い、全工程を終了した。

### 整理作業体制

作業期間 令和3年12月1日～令和4年4月30日

事業主体者 秋田市

調査担当者秋田市教育委員会

調査体制 秋田市観光文化スポーツ部文化振興課

文化振興課 課長 岩山 健

文化財担当

副 参 事 岡 部 友 明  
主席主査 神 田 和 彦 (整理担当)  
主席主査 真井田 宏 彰  
主 査 田 中 圭 紅  
主 査 斎 藤 和 敏  
主 任 斎 藤 志帆子

業務受託者 株式会社イビゾク

調 査 員 佐藤好司 調査補助員 石田純子  
整理作業員 斎藤淑子

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

調査地である久保田城跡は、JR奥羽本線秋田駅の北西約800mの平坦地に位置している。秋田市街地の秋田市千秋久保田町地内で、北緯 $39^{\circ} 43' 5''$ 、東経 $140^{\circ} 7' 33''$ （世界測地系：X = -31039.556, Y = -60641.967）である。周辺は秋田市の都市公園「千秋公園」となっている（第1図）。

調査対象地が位置する久保田城跡は、地形分類では千秋公園台地にあたり、周辺部は秋田低地にあたる（経済企画庁総合開発局国土調査課編1966、第2図）。千秋公園台地は標高40m・35m・25mの3面からなる旭川の河岸段丘である。いずれも北部に位置する手形山と同様に第四紀系の礫層や含礫砂層（湯西層）からなっている。秋田低地は新城川以南の南北に細長い沖積低地を示し、三角州平野がこれにあたる。調査地は秋田低地の部分に該当する。

### 第2節 歴史的環境

#### （1）周辺の遺跡

秋田市教育委員会が昭和61年から63年に作成した『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』（秋田市教育委員会1989）および『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書—改訂版一』（秋田市教育委員会2002）に基づいて、久保田城跡周辺の遺跡について概観する（第3図、第1表）。

近世の遺跡は、久保田城跡（1）周辺で、南西に古川堀反町遺跡（2）、南側に藩校明徳館跡（3）、東根小屋遺跡（4）がある。また、久保田城跡から北約1.7kmに名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸（如斯亭）庭園（6）、北東約1.3kmに平田篤胤墓（7）、西約2kmに八橋一里塚（11）、北北東約2.5kmに高梨台遺跡（13）、北北西1.9kmに万固山天徳寺（21）がある。

古川堀反町遺跡は、平成16・17年に秋田中央警察署改築事業に伴う緊急発掘調査が実施され、秋田藩の家老が居住していた武家屋敷跡である（秋田県教育委員会2008）。藩校明徳館跡は平成12年に市街地再開発事業に伴う緊急発掘調査が実施され、江戸・明治期の遺構（建物跡・溝跡・井戸跡等）とともに近世陶磁器が出土している（秋田市教育委員会2002）。

名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸（如斯亭）庭園は、平成24年度に修復整備に伴う発掘調査が行われ、元禄年間（1688～1704）に整備された佐竹家別邸庭園であることが考古学的調査によっても追認され、修復整備に必要な当時の建物遺構や庭園遺構についての所見を得ている（秋田市教育委員会2013）。東根小屋遺跡は平成14・15年に教育・福祉複合施設整備に伴う緊急発掘調査が実施され、秋田藩の上級武士の宅地跡（建物跡・井戸跡等）が発見されている（秋田県教育委員会2005）。平田篤胤墓（国指定史跡）は国学四大人の一人である平田篤胤（1776～1843）の墓である。八橋一里塚は慶長9年（1604）に江戸日本橋を起点として主要街道の一里ごとに置かれた塚で、八橋一里塚は日本橋から143里である。高梨台遺跡は縄文時代の遺跡と考えられていたが（五十嵐1967）、平成28・29年度に市営住宅建築工事に伴う範囲確認調査を行ったところ近世瓦がまとめて出土している（秋田市教育委員会2017・2018）。万固山天徳寺は重要文化財天徳寺ほか2棟の保存修理事業に伴い本堂および書院部分の発掘調査が行われ、本堂は2期の変遷、書院は3期の変遷があることが判明した（秋田市教育委員会2020）。

## (2) 久保田城跡の概要

久保田城跡は、秋田藩主佐竹氏12代約270年間の居城で、現在の千秋公園一帯がその範囲である（第4図）。慶長7年（1602）に常陸国水戸城（茨城県水戸市）から秋田に転封された佐竹義宣（1570～1633）は、当初旧藩主秋田（安東）実季（1576～1659）の居城であった土崎の湊城に入城した。しかし、海岸に近い湊城は狭小の平城であることから、家臣団の居住地の確保と諸施設の建設用地等の収容能力的な問題や、防衛的な不安などから新城を築くこととなった。実地検分の結果、仁別川（旭川）を西方に移すことを前提に久保田神明山を選定し、翌年の慶長8年（1603）5月に着工した。神明山には川尻村の肝煎である豪族三浦氏（後の川尻氏）の氏神（後に川尻總社神社）や数軒の人家があったが、それぞれを移転させている。そして、城は未完成であったが約1年後の同9年（1604）8月には湊城を破却して新城へ移り、それ以降も継続して城の整備を続けた。

久保田城は、①本丸、②二の丸、③三の丸・北の丸からなる三重構造である。本丸は東西65間（約117m）、南北120間（216m）で、藩主の住居である本丸御殿や政務所等が置かれ城の中枢となっている。本丸は台地の最も高台に位置し、一面を平らにして外周には土塁を巡らし、土塁の間には4箇所の門（表門・裏門・帶曲輪門・埋門）と5箇所の切戸口を設けていた。そして、門を除く土塁の上には多間長屋を建て、多間長屋のない部分は板塀となっているなど、城内を厳重に守り固めていた。また、北西隅には御隅櫓（新兵具庫）、南西隅には御出書院が置かれていた。

二の丸は東西39間（約70m）、南北240間（432m）で、諸役所（境目方役所・勘定方役所等）や金蔵・廄等が置かれていた。この二の丸は本丸の正面としての玄関口にあたり、外部からの道はすべてここに集まり、内堀を渡る橋4箇所には門（黒門・松下門・不淨門・土門）を設け、足軽番所を置いて警備していた。

三の丸は二の丸の北・東・南の3方向をコの字型に囲んでいる一段低い地区である。二の丸を囲む内堀と町を画する外堀の間にあり、家老級の重臣の屋敷等が置かれていた。三の丸は3つの地域からなっており、二の丸東方で大手門と大手北の門との間の高地を上中城、二の丸南方の低地を下中城、上中城から北へ続く北の丸を山の手という。三の丸地域の詳細な記録は少ないが、規模については東西64間（約115m）、南北144間（約259m）と台地の大きさが記載されている。

これらが基本となる構造に加え、本丸の西には堀と土塁によって囲まれた独立した郭がつくられ、兵具庫が置かれた。この兵具庫が置かれた郭は、「西曲輪」や「捨曲輪」と呼ばれるが、本報告書では「西曲輪」と呼ぶ（秋田市2003）。

堀は、本丸・二の丸を囲む内堀、三の丸（北の丸・西曲輪を含む）を囲む外堀がある。西曲輪部分では内堀と外堀が合流する部分がある。

## (3) 久保田城跡における調査地点の状況について

久保田城跡および周辺の既往調査については、第4図、第2・3表に示した。今回の調査地点は、久保田城跡南東部のNo. 44・45の地点である。この地点は、久保田城跡三の丸の南端にあたり、南端の土塁に相当する部分であると考えられる。正保4年（1647）「出羽国秋田郡久保田城絵図」によれば、調査地付近は大手門に続く土塁が屈曲するかしないかの部分に該当し、絵図には付近に櫓状の建物が存在する（第5図）。今回の調査地点は、現状で南側より3m程度高くなってしまっており、土塁に相当する部分であると考えられるが、南側の既存建物「ホテルハワイ」部分については、堀跡部分に相当することが、この絵図から推定される。以上のように、調査地点は、三の丸南端の土塁部分に相当し、付近に櫓状建物が

存在する可能性のある地点である。

【第2章引用・参考文献】

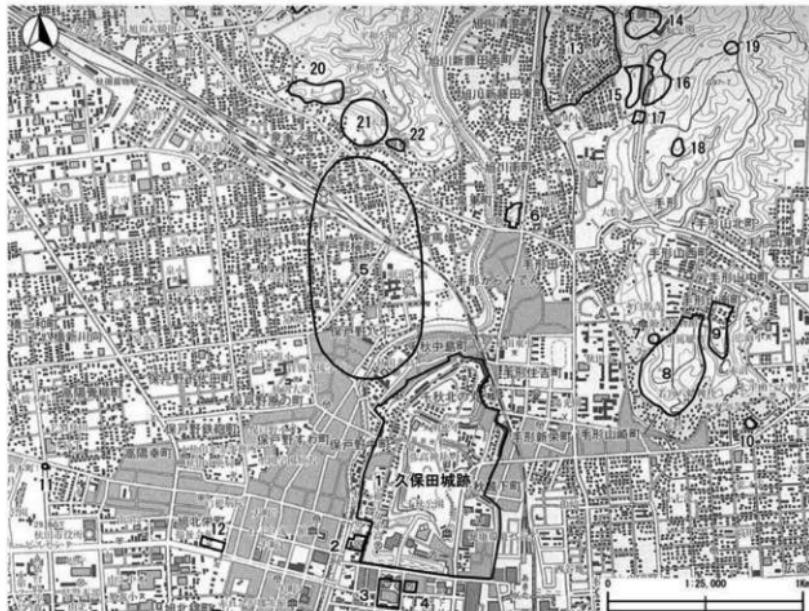
- 秋田県教育委員会 1980『国典類抄 第十巻 軍部 全』秋田県立秋田図書館編  
秋田県教育委員会 1989『秋田県の文化財』  
秋田県教育委員会 2005『東根小屋遺跡－秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』  
秋田県教育委員会 2008『古川堀反町遺跡－秋田中央警察署改築工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』  
秋田市 2003『秋田市史 第三巻 近世通史編』  
秋田市教育委員会 1989『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』  
秋田市教育委員会 1992『久保田城跡-佐竹史料館増築に伴う二の丸発掘調査報告書-』  
秋田市教育委員会 2002『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書-改訂版-』  
秋田市教育委員会 2002『藩校明徳館跡-市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書-』  
秋田市教育委員会 2013『名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸（如斯亭）庭園-修復整備に伴う発掘調査概報-』  
秋田市教育委員会 2017『平成28年度秋田市遺跡確認調査報告書』  
秋田市教育委員会 2018『平成29年度秋田市遺跡確認調査報告書』  
秋田市教育委員会 2020『万固山天徳寺-重要文化財天徳寺本堂ほか2棟保存修理事業に伴う発掘調査報告書-』  
五十嵐芳郎 1967『高梨台 遺跡とその資料V 秋田市新藤田字高梨台遺跡』



第1図 遺跡位置図



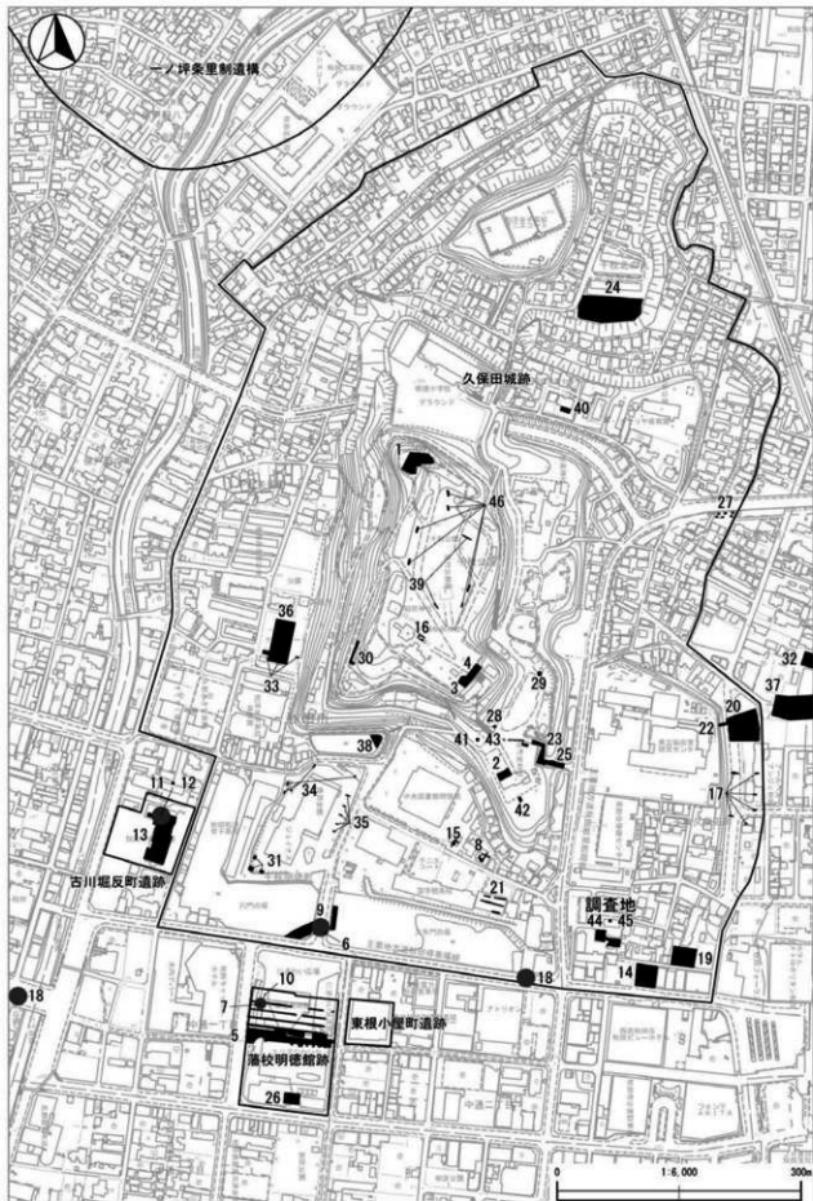
第2図 地形分類図 (S=1/50,000)



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	所在地	時代	遺構・遺物
1	久保田城跡	城郭	秋田市千秋公園・千秋明徳町等	近世	建物跡・土壙・土取穴: 瓦・銅製品・鉄製品・ガラス製品・陶器
2	古川堀反町遺跡	武家屋敷跡	秋田市千秋明徳町1-9	近世	近世陶磁器
3	藤原明徳館跡	遺物包含地・武家屋敷・学校跡	秋田市中通一丁目4	近世	獨立柱建物跡・柱列・井戸跡・溝跡・土坑: 近世陶磁器
4	東根小屋町遺跡	武家屋敷跡	秋田市中通二丁目1-52	近世	柱列・井戸跡・溝跡・土坑・柱穴: 近世陶磁器・土器・木製品・金属製品・錢貨・動物遺体・礫石遺体
5	一ノ坪条里創造構	条里創造構	秋田市保戸八丁目、泉一ノ坪他	奈良・平安	
6	名勝旧秋田藩主竹氏別邸(如斯亭)庭園	庭園	秋田市旭川南町2-73	近世	建物跡・柱列跡・溝跡・土坑・柱穴・通路・梗摺: 土師器・須恵器・陶磁器・木製品・鉄製品
7	平田廻風堂	墓地	秋田市手形字大沢	近世	
8	蛇野道跡	遺物包含地・城館	秋田市手形字蛇野・推子・大沢	平安・中世	右端・赤褐色土器
9	柳沢遺跡	集落跡	秋田市広面字柳沢	平安	喰穴住居跡・土塹: 漆文土器・石器・扁平打製石器・磨製石斧
10	板田町内遺跡	遺物包含地	秋田市広面字赤沼	平安	
11	八幡一里塚	一里塚	秋田市八幡本町1-1目	近世	
12	宮脇寺石造物	宝篋印塔・楕碑	秋田市旭北光明町7-42	中世・近世	宝篋印塔・板碑
13	高輪台遺跡	遺物包含地	秋田市新藤田字高輪台	奈良・平安	漆文土器・石器・石瓶・スクレイバー・瓦・須恵器
14	中山台遺跡	遺物包含地	秋田市新藤田字中山台	奈良・平安	
15	中台遺跡	集落跡	秋田市手形字中台58-1他	平安	喰穴住居: 漆文土器
16	太松沢1遺跡	遺物包含地	秋田市手形字太松沢	平安	漆文土器・須恵器・土師器・陶器・石器
17	太松沢2遺跡	遺物包含地	秋田市手形字太松沢	中世	中世陶器
18	手形山南北遺跡	集落跡・遺物包含地	秋田市手形字大沢沢	平安	赤褐色土器・須恵器・土師器・近世陶磁器・砾石
19	手形山園跡	園跡	秋田市手形字大沢沢	奈良・平安	空堀: 窓櫓
20	山崎館	館跡	秋田市外旭川字白子山崎等	中世	瓦・塵乳
21	万圓山天地寺	社寺	秋田市泉三嶽根10	近世	柱列・溝跡・礎石跡・焼土・盛土・ピット: 陶磁器・かわらけ・木製品・金属製品・錢貨
22	三嶽根遺跡	遺物包含地・館跡	秋田市泉三嶽根・五庵山	平安・中世	漆文土器・赤褐色土器



第4図 久保田城跡と既往調査地点

第2表 久保田城跡および周辺の既往調査一覧（1）

No.	遺跡名	所在地	調査期間	面積	状況	調査原因・概要	文献
1	久保田城跡	秋田市千秋公園7番1	1988/5/23～6/16	600m <sup>2</sup>	発掘	御園橋復元。御園橋や多門橋、柱列の根固を検出。	秋田市教育委員会1989『久保田城跡-本丸御園橋跡発掘調査報告書』
2	久保田城跡	秋田市千秋公園地内	1991/12/9～1992/1/8	144m <sup>2</sup>	発掘	佐竹史料館増築。二の丸東南部の勘定所・境目方役所の区画施設を検出。	秋田市教育委員会1992『久保田城跡-佐竹史料館増築に伴う二の丸発掘調査報告書』
3	久保田城跡	秋田市千秋公園地内	1997/5/29～6/24	280m <sup>2</sup>	発掘	表門復元。表門の礎石や地覆石、土壠、石垣を検出。	秋田市教育委員会1997『久保田城跡-表門復元に伴う発掘調査報告書』
4	久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2000/5/8～5/16	217m <sup>2</sup>	発掘	表門復元。表門立替の状況を確認。	秋田市教育委員会2001『久保田城跡-表門復元に伴う発掘調査報告書』
5	藩校明徳館跡	秋田市中通一丁目4番地内	2000/6/5～11/10	2200m <sup>2</sup>	発掘	市街地再開発事業。建物7棟、柱列、溝、戸井などを検出。	秋田市教育委員会2000『藩校明徳館跡-市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書』
6	久保田城跡	秋田市千秋明徳町	2002/5/12～7/12	528m <sup>2</sup>	試掘	秋田中央道路建設。旧中土橋や護岸を検出。	秋田県教育委員会2003『遺跡詳細分布調査報告書』
7	藩校明徳館跡	秋田市中通一丁目	2002/12/10～12/12	30m <sup>2</sup>	試掘	秋田中央道路建設。溝・ビットを確認。	秋田県教育委員会2003『遺跡詳細分布調査報告書』
8	久保田城跡	秋田市千秋明徳町204番21、205番14	2002/11/18～11/19	57.5m <sup>2</sup>	試掘	学校建設。浜状の旧地形および内堀を確認。	秋田市教育委員会2003『秋田市内遭跡確認調査報告書』
9	久保田城跡	秋田市千秋明徳町204番地外	2003/5/26～7/7	722m <sup>2</sup>	発掘	秋田中央道路建設。旧中土橋や穴門の基礎部を検出。	秋田県教育委員会2006『久保田城跡-藩校明徳館跡』
10	藩校明徳館跡	秋田市中通1丁目4番地外	2003/7/7～8/1	200m <sup>2</sup>	発掘	秋田中央道路建設。17世紀前半造営の武家屋敷。	秋田県教育委員会2006『久保田城跡-藩校明徳館跡』
11	久保田城跡	秋田市千秋明徳町	2004/8/23～9/7	-	踏査・試掘	秋田中央警察署庁舎建設。武家屋敷に伴う遺構・遺物を確認。	秋田県教育委員会2005『遺跡詳細分布調査報告書』
12	久保田城跡	秋田市千秋明徳町	2004/10/27～11/25	225m <sup>2</sup>	試掘	秋田中央警察署庁舎建設。武家屋敷に伴う遺構・遺物を確認。	秋田県教育委員会2005『遺跡詳細分布調査報告書』
13	古川堀反町遺跡	秋田市千秋明徳町1番9号	2005/3/15～7/26	1690m <sup>2</sup>	発掘	秋田中央警察署庁舎建設。旧旭川右岸の湿地部埋立の状況と武家屋敷を確認。	秋田県教育委員会2008『古川堀反町遺跡』
14	久保田城跡	秋田市千秋久保田町3番38、37	2005/5/18	20m <sup>2</sup>	試掘	ホテル建設。外堀内。遺構・建物の確認なし。	秋田市教育委員会2006『平成17年度秋田市遭跡確認調査報告書』
15	久保田城跡	秋田市千秋明徳町205番11、18	2005/5/25～5/26	34.8m <sup>2</sup>	試掘	事務所建設。湿地の埋立、武家屋敷に伴う遺構・遺物を確認。	秋田市教育委員会2006『平成17年度秋田市遭跡確認調査報告書』
16	久保田城跡	秋田市千秋公園1番8号	2005/7/11～7/12	17.8m <sup>2</sup>	試掘	店舗建設。近世の整地層、遺構・遺物を確認。	秋田市教育委員会2006『平成17年度秋田市遭跡確認調査報告書』
17	久保田城跡	秋田市千秋久保田町地内	2005/11/15～11/16	69.6m <sup>2</sup>	試掘	土地区画整理。外堀の東西両岸を確認。	秋田市教育委員会2006『平成17年度秋田市遭跡確認調査報告書』
18	久保田城跡	秋田市千秋明徳町、大町二丁目	2006/1/25～2/22	-	試掘	秋田中央道路整備。近代の護岸を確認。	秋田県教育委員会2006『遺跡詳細分布調査報告書』
19	久保田城跡	秋田市千秋久保田町3番92他	2006/11/20	20m <sup>2</sup>	試掘	マンション建設。外堀内。立ち上がりは未検出。	秋田市教育委員会2006『平成18年度秋田市遭跡確認調査報告書』
20	久保田城跡	秋田市千秋久保田町地内	2006/12/22～2007/1/12	45.8m <sup>2</sup>	試掘	土地区画整理。外堀の西側立ち上りを確認。	秋田市教育委員会2006『平成18年度秋田市遭跡確認調査報告書』
21	久保田城跡	秋田市千秋明徳町204番10	2007/6/26～2007/6/28	195.3m <sup>2</sup>	試掘	高等学校体育館新築。三の丸跡、礎石、柱穴、土壙、ピット、整地層を確認。	秋田市教育委員会2008『平成19年度秋田市遭跡確認調査報告書』
22	久保田城跡	秋田市千秋久保田町地内	2007/8/7～11/15	360m <sup>2</sup>	発掘	秋田駅西北地区土地区画整理事業。三の丸を取囲む外堀や護岸用の杭を検出。	秋田市教育委員会2008『久保田城跡-秋田駅西北地区土地区画整理事業都市計画道路千秋久保田町線に伴う三の丸跡発掘調査報告書』
23	久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2007/11/2～12/10	150m <sup>2</sup>	発掘	千秋公園再整備計画黒門再建。新旧2時期の黒門の礎石を検出。	秋田市教育委員会2009『久保田城跡-千秋公園再整備計画黒門再建に伴う発掘調査報告書』

第3表 久保田城跡および周辺の既往調査一覧（2）

No.	遺跡名	所在地	調査期間	面積	状況	調査原因・概要	文献
24	久保田城跡	秋田市千秋北の丸 2番209地内	2008/5/23	98m <sup>2</sup>	試掘	宗教法人会館新築。削平を受け遺構確認なし。	秋田市教育委員会2009『平成20年度秋田市道路確認調査報告書』
25	久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2008/10/14 ～12/12	80m <sup>2</sup>	発掘	千秋公園再整備計画黒門再建。黒門前の内堀に架かる唐金橋橋脚の断片を検出。	秋田市教育委員会2009『久保田城跡-千秋公園再整備計画黒門再建に伴う発掘調査報告書』
26	藩校明徳館跡	秋田市中通一丁目 地内	2011/3/10 ～3/11	35.5m <sup>2</sup>	試掘	市街地再開発事業。遺構の確認なし。	秋田市教育委員会2012『平成23年度秋田市遺跡確認調査報告書』
27	久保田城跡	秋田市千秋城下町外	2011/3/14 ～3/18	50m <sup>2</sup>	試掘	主要地方道秋田岩見船岡線建設。外堀内。立上りは未検出。	秋田県教育委員会2012『道路詳細分布調査報告書』
28	久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2012/12/27	2.7m <sup>2</sup>	試掘	千秋公園整備事業。遺構・遺物の確認なし。	秋田市教育委員会2013『平成24年度秋田市遺跡確認調査報告書』
29	久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2014/7/22	8.6m <sup>2</sup>	試掘	千秋公園市民交流ゾーン整備。遺構の確認なし。	秋田市教育委員会2015『平成26年度秋田市道路確認調査報告書』
30	久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2014/11/19	8.4m <sup>2</sup>	試掘	千秋公園さくら景観整備。遺構の確認なし。	秋田市教育委員会2015『平成26年度秋田市遺跡確認調査報告書』
31	久保田城跡	秋田市千秋明徳町 204外	2016/2	-	試掘	県・市連携文化施設整備。県保護室実験。	秋田県教育委員会2018『道路詳細分布調査報告書』
32		秋田市千秋城下町 地内	2016/11/7	26.4m <sup>2</sup>	試掘	秋田駅西北地区土地区画整理。湿地の状況を確認。	秋田市教育委員会2017『平成28年度秋田市遺跡確認調査報告書』
33	久保田城跡	秋田市千秋矢留町 9番22	2017/11/13 ～11/20	230m <sup>2</sup>	試掘	県市連携文化施設整備事業に伴う作業施設移転。内堀跡を確認。	秋田市教育委員会2018『平成29年度秋田市遺跡確認調査報告書』
34	久保田城跡	秋田市千秋明徳町 204外	2017/11/13 ～11/16	16.1m <sup>2</sup>	試掘	新・市連携文化施設整備。土壠・土坑・柱穴を確認。	秋田県教育委員会2018『道路詳細分布調査報告書』
35	久保田城跡	秋田市千秋明徳町 204外	2018/2/5 ～2/8	11m <sup>2</sup>	試掘	県・市連携文化施設整備。近世地層・柱穴	秋田県教育委員会2019『道路詳細分布調査報告書』
36	久保田城跡	秋田市千秋矢留地 内	2018/6/18 ～11/14	1272m <sup>2</sup>	発掘	秋田和洋女子高等学校建設。西曲輪郭東側堀跡を検出。	秋田市教育委員会2019『久保田城跡-秋田和洋女子高等学校建設会社設事業に伴う発掘調査報告書』
37		秋田市千秋城下町 地内外	2018/9/12 ～9/13	19.4m <sup>2</sup>	試掘	秋田駅東第三地区および秋田駅西北地区土地区画整理。湿地の状況を確認。	秋田市教育委員会2019『平成30年度秋田市道路確認調査報告書』
38	久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2019/7/17	2m <sup>2</sup>	試掘	内堀水質浄化整備。内堀内。近代以降の堆積土。	秋田市教育委員会2020『令和元年秋田市道路確認調査報告書』
39	久保田城跡	秋田市千秋公園地 内(本丸)	2020/1/15 ～1/16	30m <sup>2</sup>	試掘	千秋公園さくら景観整備。御殿間遺構および整地層を確認。	秋田市教育委員会2020『令和元年秋田市道路確認調査報告書』
40	久保田城跡	秋田市千秋北の丸 地内	2020/4/28	2m <sup>2</sup>	試掘	集合住宅建設。3期の整地層を検出。	秋田市教育委員会2021『令和2年度秋田市遺跡確認調査報告書』
41	久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2020/6/2	3m <sup>2</sup>	試掘	千秋公園整備事業。二の丸整地層を確認。	秋田市教育委員会2021『令和2年度秋田市遺跡確認調査報告書』
42	久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2020/11/4 ～11/5	11m <sup>2</sup>	試掘	佐竹史料館改築。二の丸整地層を確認。	秋田市教育委員会2021『令和2年度秋田市遺跡確認調査報告書』
43	久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2020/9/17 ～10/30	69m <sup>2</sup>	発掘	千秋公園整備事業。二の丸堀口方役所等の区画施設と3期の整地層を検出。	秋田市教育委員会2021『久保田城跡-千秋公園整備事業(大坂等歴史設備工事)発掘調査報告書』
44	久保田城跡	秋田市千秋久保田 町4番173・174・ 175・47	2021/7/8 ～7/9	58m <sup>2</sup>	試掘	マンション建設。土壠を確認。	秋田市教育委員会2022『令和3年度秋田市道路確認調査報告書』
45	久保田城跡	秋田市千秋久保田 町4番173・174・ 175・47	2021/9/22 ～11/29	312m <sup>2</sup>	発掘	マンション建設。土壠及び基礎層の状況を確認。	本書
46	久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2021/12/13 ～12/14	28m <sup>2</sup>	試掘	千秋公園さくら景観整備事業。御殿間遺構および整地層を確認。	秋田市教育委員会2022『令和3年度秋田市道路確認調査報告書』



第5図 正保4年(1647)「出羽国秋田郡久保田城絵図」秋田県公文書館所蔵

## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の方法

調査対象地のうち試掘調査の結果に基づき調査区を設定した(312m<sup>2</sup>)。調査対象地内に秋田市街区多角点を用いてトランバース測量により世界測地系平面直角座標第10系に基づく3点の基準点を設置した。標高値はT.P.を用いた。各基準点は下記のとおりである。

H1 (X=-31034.291 Y=-60644.104 Z=16.220m)

H2 (X=-31041.673 Y=-60635.098 Z=16.346m)

H3 (X=-31060.296 Y=-60617.689 Z=12.761m)

グリッドの設定に当たっては座標北方向をグリッドの南北軸とし、これに直交する東西軸を設定した。グリッド南北軸に算用数字(…48, 49, 50…), グリッド東西軸に2文字のアルファベット(…MC, MB, MA…)を付し、各グリッドの南東隅の交点で両者を組み合わせてグリッド名とした。A区のほぼ中心部の座標値がX=-31040.000, Y=-60640.000であることから、この地点をグリッドMA50とし、東西南北ともに4m単位のグリッドとした。各グリッドの交点の座標値は、第4表のとおりとなる。便宜上、調査対象地のうち土壌が遺存すると思われる西側の調査区をA区、1段低くなる東側の調査区をB区と呼称した。

調査に先立ち、調査対象範囲の周辺を含めた現況地形測量を行い10cmの等高線図を作成した。

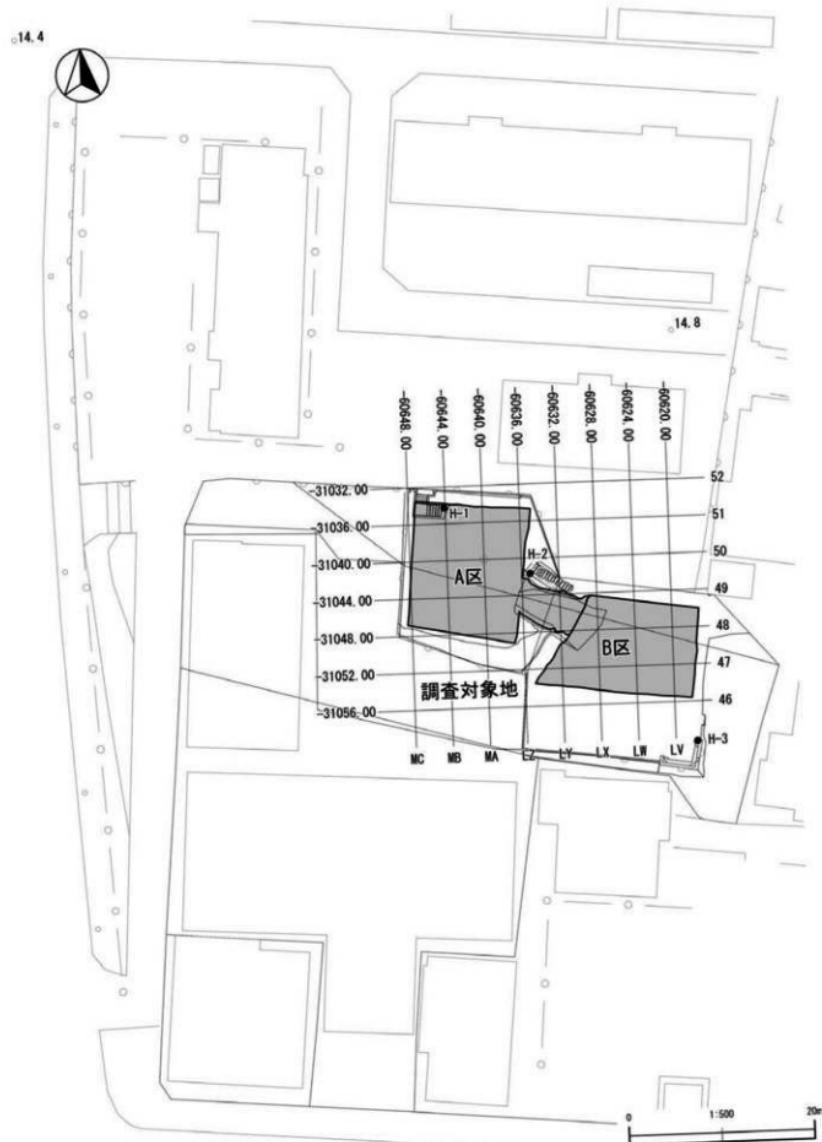
表土および造成土の一部は、層を確認しながらバックホーを利用し除去し、途中より作業員による手掘りに切り替え掘り下げた。また、搅乱についても原則作業員による手掘りにより掘り下げた。

遺物は、グリッド名・層位名等を記録したグリッド上げを基本として取り上げた。平面図・土層断面図は、1/20の縮尺で作成した。平面図はトータルステーションによるCG平板測量で作成し、一部は写真測量により作成した。遺構写真は、35mm版モノクロフィルムおよびデジタル一眼レフカメラでRAW形式およびJPEG形式で記録した。遺物は調査終了時で、55×34×15cmのコンテナで約5箱である。遺物は洗浄・接合・注記・復元作業を行い、実測図を1/1で作成した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラを使用し、Tiff形式で記録した。

第4表 各グリッドの世界測地系座標

東西名	南北名	X座標	Y座標
LY	46	-31056.000	-60632.000
LX	46	-31056.000	-60628.000
LW	46	-31056.000	-60624.000
LV	46	-31056.000	-60620.000
LU	46	-31056.000	-60616.000
MA	47	-31052.000	-60640.000
MB	47	-31052.000	-60644.000
MC	47	-31052.000	-60648.000
LZ	47	-31052.000	-60636.000
LY	47	-31052.000	-60632.000
LX	47	-31052.000	-60628.000
LW	47	-31052.000	-60624.000
LV	47	-31052.000	-60620.000
LU	47	-31052.000	-60616.000
MA	48	-31048.000	-60640.000
MB	48	-31048.000	-60644.000
MC	48	-31048.000	-60648.000
LZ	48	-31048.000	-60636.000
LY	48	-31048.000	-60632.000
LX	48	-31048.000	-60628.000
LW	48	-31048.000	-60624.000
LV	48	-31048.000	-60620.000
LU	48	-31048.000	-60616.000

東西名	南北名	X座標	Y座標
MA	49	-31044.000	-60640.000
MB	49	-31044.000	-60644.000
MC	49	-31044.000	-60648.000
LZ	49	-31044.000	-60636.000
LY	49	-31044.000	-60632.000
LX	49	-31044.000	-60628.000
LW	49	-31044.000	-60624.000
LV	49	-31044.000	-60620.000
LU	49	-31044.000	-60616.000
MA	50	-31040.000	-60640.000
MB	50	-31040.000	-60644.000
MC	50	-31040.000	-60648.000
LZ	50	-31040.000	-60636.000
LY	50	-31040.000	-60632.000
MA	51	-31036.000	-60640.000
MB	51	-31036.000	-60644.000
MC	51	-31036.000	-60648.000
LZ	51	-31036.000	-60636.000
LY	51	-31036.000	-60632.000



第6図 調査地の周辺地形とグリッド配置図

## 第2節 層序

調査区の層序の詳細については、第5～12表にまとめた。また、調査区の断面図は第9～11図に示した。土層の堆積はA区とB区で一部異なっているが、全体として整合をとっている。調査区で確認された土層の大別と概要を要約すると下記のとおりである。

**第I層（現表土層）**：現状の地表面である。A区では暗褐色粘質土、B区では黒褐色粘質土である。

**第II層（近代～現代造成土）**：宅地および攪乱の埋立造成土である。近世～現代にかけての遺物が多く含まれる。B区においては漆喰片を特徴的に含む。宅地造成に伴う造成土である。A区では第II-①～②層は土星上部の攪乱の埋土とし、第II-1～28層は土星北側に堆積する造成土とした。

**第III層（近世堆積層）**：地山由来の黄橙色～明赤褐色粘土ブロックを含む層を中心としており、土星崩落堆積層である。土星北側法面に確認される。一部土壤化した層も認められる。III-16層より上層は18世紀末～19世紀、III-17層より下層は17世紀～18世紀の遺物を含む。

**第IV層（土星盛土層）**：にぶい黄橙色～明赤褐色粘土・黒褐色粘土のブロックを主体的に含む。地山ローム層や段丘疊層下の粘土層由来である。遺物は含まない。土星盛土層でありB区においては削平により確認されない。

**第V層（地山ローム層・砂礫層）**：地山層を総称する。V-1・2層は黒褐色粘質土。V-3・4は黄褐色粘土のローム層。V-5以下は段丘疊層で拳大以上の砂礫が主体。トレントにより確認した旧地形の状況は北西から南東に向かい傾斜し河岸段丘の段丘崖であったと考えられる。調査対象地の南側は8.2m程の比高をもち外堀の痕跡と考えられ、この段丘崖を加工・利用したものと考えられる。

## 第3節 遺構（第7～11図）

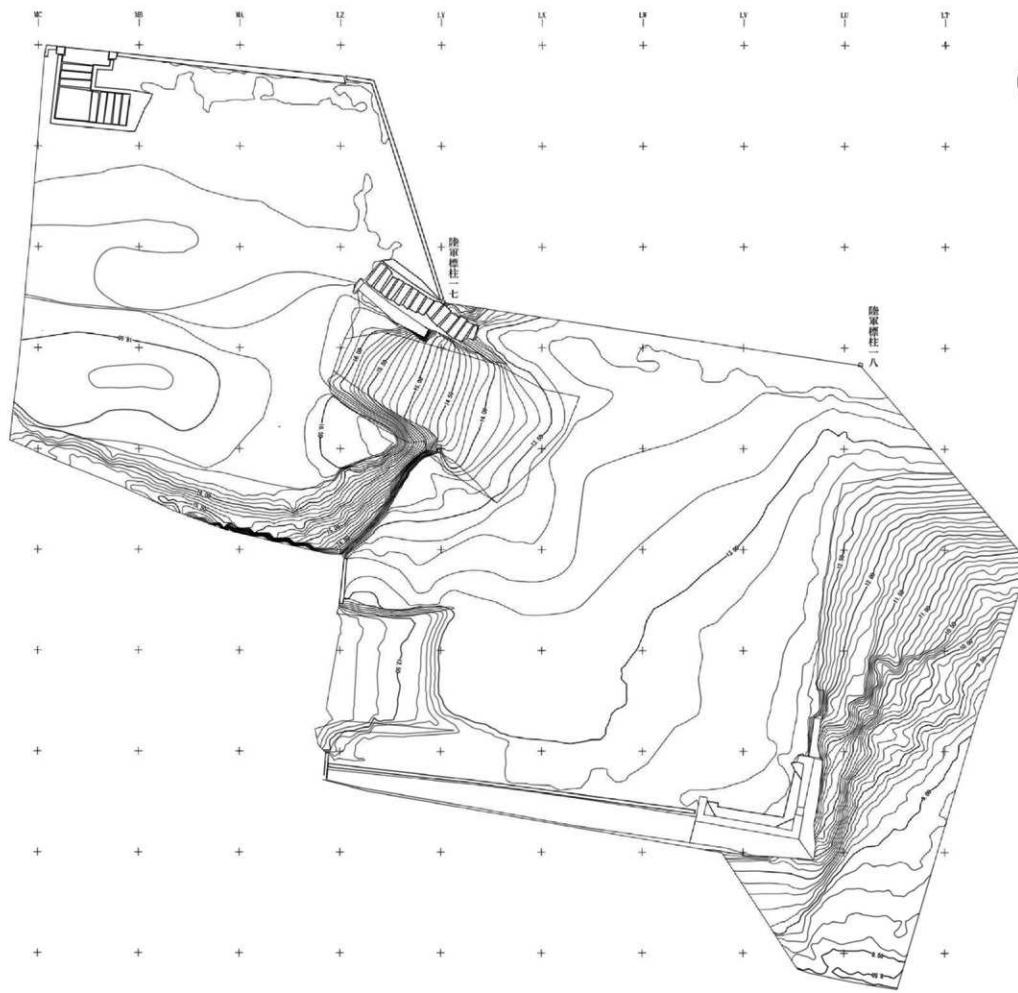
検出された遺構は、A区において土星が確認されたのみである。A区の土星上およびB区において確認された落込みは全て土採跡や宅地として利用されていた際の建物基礎や植栽痕跡などの攪乱である。調査前現況図を第7図、調査区全体図を第8図に示した。

### 土星跡（第7～10図）

A区において検出された。調査前の状況は西側と南側が横矢板土留、北側がコンクリート擁壁、東側がコンクリート擁壁と石垣（調査時には除去）により囲まれた東西16.5m、南北18m程の平面5角形の残丘状を呈していて、從前は住宅が建っていた。調査前の上面標高は北側の最も低いところで16.14m、南側の最も高いところで16.63mを測り、隣接地との比高は北側で約1.5m、南側で約4.5m、東側のB区とは約3.2mである。西・南側の隣接地についてはホテル駐車場となっておりホテル建物に合わせて削平されたものと思われる。また、東側のB区には從前は住宅が建っており、周囲は削平され土星は失われているものと考えられた。土星の調査にあたってはA区中央部の南北に土層ベルトを設定して掘下げを行った。南側1/3の範囲では表土層（第I層）下7cm程で宅地造成土（第II層）が確認され、さらに10cm程掘下げると土星盛土層（第IV層）が確認された。宅地造成土直下において土星盛土が検出されることから、土星頂部は削平を受けていると思われる。この範囲では不定形の土坑状の落込みが確認されたため掘下げを行ったが、堆積土の状況からいずれも攪乱と判断され、土星上の施設などの痕跡は確認できなかった。北側2/3の範囲では土星盛土層が確認されなかつたため、土層状況を確認しながら掘下げを進めたところ、近・現代の遺物を伴う大型の攪乱孔が検出された。この攪乱孔は土星断割トレント（第10図）の観察では地山層まで達しており、土採の目的で



第3章 調査の方法と成果

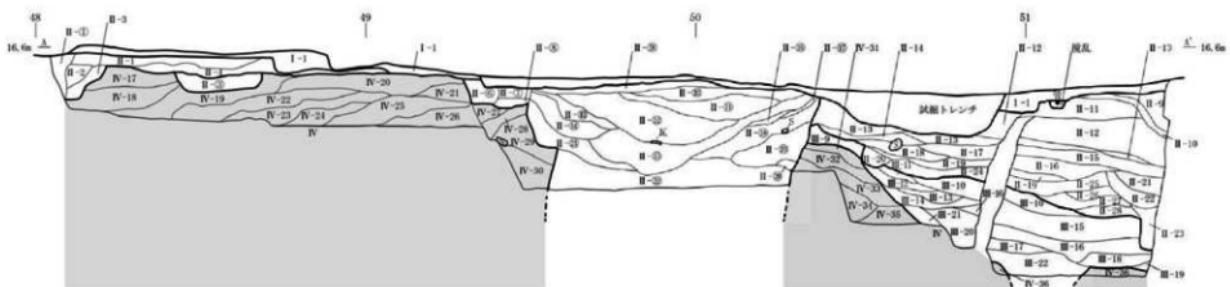


第7図 調査前現況図

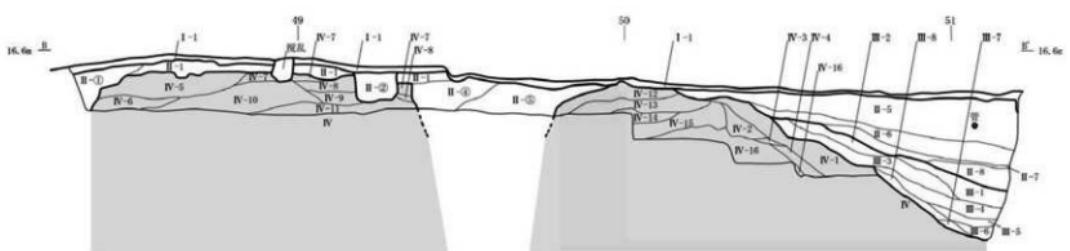


第8図 調査区全体図

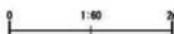
A区土層ベルト断面図



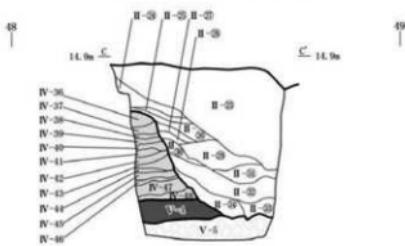
A区西壁土層断面図



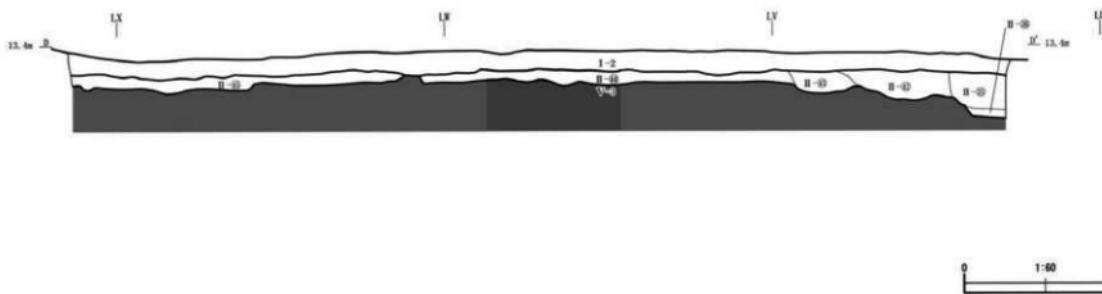
第9図 土層断面図（1）



A区土壌断面図



B区北壁土層断面図

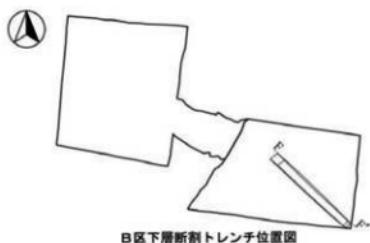


第10図 土層断面図（2）

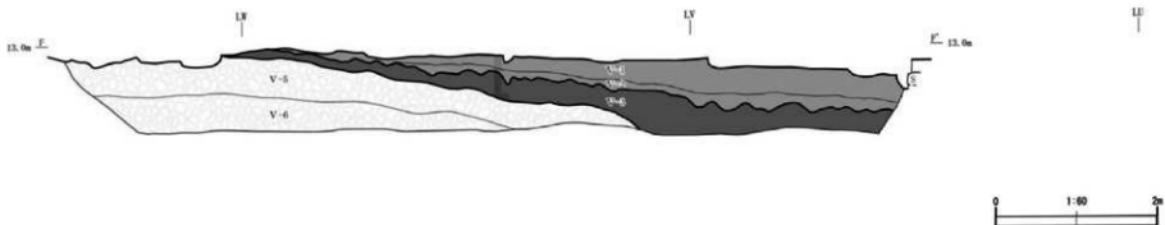
B区東壁土層断面図



B区下層断割トレンチ断面図



B区下層断割トレンチ位置図



第11図 土層断面図（3）

第5表 A区土層記号一覧(1)

層名	確認場所	性質	特徴	備考
I-1	A区西壁 A区土層ベルト	表土	暗褐色粘質土(10YR3/3)に円礫φ0.5cmが部分的に混じる。しまり弱。粘性中。	
II-1	A区西壁 A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	灰褐色粘質土(7.5YR4/2)に橙色粘土(7.5YR6/8)・にぶい橙色粘土(7.5YR6/4)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	宅地造成土
II-2	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	にぶい褐色粘質土(7.5YR5/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明黃褐色粘土(10YR6/8)小ブロック混じる。黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック若干混じる。しまり強。粘性中。	宅地造成土
II-3	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	灰褐色粘質土(7.5YR4/2)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/4)粒子混じる。しまり中。粘性中。	宅地造成土
II-4	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	褐色粘質土(7.5YR4/3)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黃褐色粘土(10YR6/8)小ブロック均一に混じる。しまり中。粘性中。	宅地造成土
II-5	A区西壁	近代 ～現代造成土	灰褐色粘質土(7.5YR4/2)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック、亜円礫φ3～10cmが混じる。しまり強。粘性強。	宅地造成土
II-6	A区西壁	近代 ～現代造成土	にぶい褐色粘質土(7.5YR5/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック多く、φ2～5cm大亜円礫混じる。しまり強。粘性強。	宅地造成土
II-7	A区西壁	近代 ～現代造成土	黒褐色粘質土(7.5YR2/2)に明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	宅地造成土
II-8	A区西壁	近代 ～現代造成土	褐色粘質土(7.5YR4/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック多く混じる。しまり強。粘性強。	宅地造成土
II-9	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	黒褐色粘土(7.5YR3/2)に明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック主体。明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。しまり中。粘性強。	宅地造成土
II-10	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	灰褐色粘土(7.5YR4/2)に明黃褐色粘土(10YR6/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック主体。明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック若干混じる。しまり中。粘性強。	宅地造成土
II-11	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	灰褐色粘土(7.5YR4/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明黃褐色粘土(10YR6/8)粒子多く混じる。亜円礫φ3～5cm混じる。しまり中。粘性強。	宅地造成土
II-12	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	暗褐色粘土(7.5YR3/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明黃褐色粘土(10YR6/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック多く混じる。亜円礫φ1～5cm多く混じる。しまり強。粘性強。	宅地造成土
II-13	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	オーブン黑色粘土(5Y3/1)に鉄分混じる。グライト化する。しまり強。粘性強。	宅地造成土
II-14	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)に亜円礫φ5cm少量混じる。しまり中。粘性中。	宅地造成土
II-15	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	黒褐色粘土(7.5YR3/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック均一に混じる。黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック少く混じる。亜円礫φ2～5cm混じる。しまり強。粘性強。	宅地造成土
II-16	A区土層ベルト	近代 ～現代造成土	暗褐色粘土(7.5YR3/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック多く混じる。亜円礫φ1～5cm混じる。しまり強。粘性強。	宅地造成土

第6表 A区土層記号一覧（2）

層名	確認場所	性質	特徴	備考
II-17	A区土層ベルト	近代～現代造成土	黒褐色粘質土(7.5YR3/1)に明黄褐色粘土(10YR6/8)若干混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。	宅地造成土
II-18	A区土層ベルト	近代～現代造成土	黒褐色粘質土(7.5YR2/1)にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・にぶい黄橙色粘土(10YR6/8)ブロック混じる。亜円礫φ10cm混じる。しまり中。粘性中。	宅地造成土
II-19	A区土層ベルト	近代～現代造成土	黒褐色粘質土(7.5YR3/1)に亜円礫φ1～2cm多く、亜円礫φ3～5cm混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。	宅地造成土
II-20	A区土層ベルト	近代～現代造成土	にぶい黄橙色粘質土(10YR7/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)粒子少量混じる。しまり中。粘性中。	宅地造成土
II-21	A区土層ベルト	近代～現代造成土	灰褐色粘土(7.5YR4/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック多く混じる。亜円礫φ2cm若干混じる。炭化物粒子微量混じる。	宅地造成土
II-22	A区土層ベルト	近代～現代造成土	黒褐色粘土(7.5YR3/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)粒子均一に混じる。黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	宅地造成土
II-23	A区土層ベルト	近代～現代造成土	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に明黄褐色粘土(10YR6/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)粒子混じる。鉄分混じる。しまり強。粘性中。	宅地造成土
II-24	A区土層ベルト	近代～現代造成土	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)に亜円礫φ1～2cm混じる。しまり強。粘性中。	宅地造成土
II-25	A区土層ベルト	近代～現代造成土	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に明黄褐色粘土(10YR6/8)・明黄褐色粘土(10YR6/8)粒子混じる。鉄分混じる。亜円礫φ3～5cm混じる。しまり強。粘性中。	宅地造成土
II-26	A区土層ベルト	近代～現代造成土	黒褐色粘質土(7.5YR2/2)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック混じる。しまり強。粘性中。	宅地造成土
II-27	A区土層ベルト	近代～現代造成土	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック混じる。下面グライ化。しまり強。粘性中。	宅地造成土
II-28	A区土層ベルト	近代～現代造成土	黒褐色粘質土(7.5YR2/2)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)中ブロック混じる。しまり強。粘性中。	宅地造成土
II-①	A区西壁 A区土層ベルト	搅乱埋土	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に炭化物粒子微量混じる。しまり弱。粘性中。	
II-②	A区西壁	搅乱埋土	暗褐色粘質土(10YR3/4)に橙色粘土(7.5YR6/8)ブロック混じる。しまり弱。粘性中。	
II-③	A区土層ベルト	搅乱埋土	褐色粘質土(7.5YR4/3)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック均一に混じる。しまり中。粘性中。	
II-④	A区西壁	搅乱埋土	褐色粘質土(7.5YR4/6)に橙色粘土(7.5YR6/8)・にぶい橙色粘土(7.5YR6/4)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック、亜円礫φ2～10cmが多く混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑤	A区西壁	搅乱埋土	褐色粘土(7.5YR4/4)に亜円礫φ2～15cmが多く混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑥	A区土層ベルト	搅乱埋土	褐色粘質土(10YR4/4)に明黄褐色粘土(10YR6/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。黒褐色粘土(黒粘土)(7.5YR3/2)ブロック少量混じる。亜円礫φ2～3cm混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑦	A区土層ベルト	搅乱埋土	灰褐色粘質土(7.5YR4/2)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック多く混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑧	A区土層ベルト	搅乱埋土	褐色粘質土(7.5YR4/4)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)粒子少量混じる。しまり強。粘性強。	

第7表 A区土層記号一覧(3)

層名	確認場所	性質	特徴	備考
II-⑨	A区土層ベルト	搅乱埋土	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)小ブロック混じる。亜円礫φ0.5cmが混じる。しまり強。粘性中。	
II-⑩	A区土層ベルト	搅乱埋土	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)小ブロック混じる。亜円礫φ2~5cm混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑪	A区土層ベルト	搅乱埋土	褐色粘土(7.5YR4/4)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック多く混じる。黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック少量混じる。亜円礫φ2~5cm混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑫	A区土層ベルト	搅乱埋土	黒褐色粘土(7.5YR3/2)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック混じる。亜円礫φ1~10cm混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑬	A区土層ベルト	搅乱埋土	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック少量化混じる。亜円礫φ5~10cm混じる。しまり中。粘性中。	
II-⑭	A区土層ベルト	搅乱埋土	褐色粘土(7.5YR4/3)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック均一に混じる。黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック少量混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑮	A区土層ベルト	搅乱埋土	黒褐色粘質土(7.5YR2/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック少量混じる。炭化物粒子多く混じる。亜円礫φ2~10cm混じる。近・現代遺物多く混じる。しまり弱。粘性弱。	
II-⑯	A区土層ベルト	搅乱埋土	褐色粘土(7.5YR4/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)粒子を多く混じる。にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。しまり中。粘性強。	
II-⑰	A区土層ベルト	搅乱埋土	灰褐色粘土(7.5YR4/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック多く混じる。黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑱	A区土層ベルト	搅乱埋土	明黄褐色粘土(10YR6/8)をベースににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑲	A区土層ベルト	搅乱埋土	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)粒子混じる。しまり弱。粘性中。	
II-⑳	A区土層ベルト	搅乱埋土	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)粒子を若干混じる。しまり強。粘性中。	
II-㉑	A区土層ベルト	搅乱埋土	褐色粘土(7.5YR4/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック均一に混じる。亜円礫φ1~3cm若干混じる。しまり強。粘性強。	
II-㉒	A区土層ベルト	搅乱埋土	灰褐色粘土(7.5YR4/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック均一に混じる。亜円礫φ1~10cm混じる。しまり強。粘性強。	
II-㉓	A区土壌断面 トレーニチ	搅乱埋土	褐色砂質土(10YR6/1)に亜円礫φ1~15cm亜円礫混じる。全体に細粒砂含む。しまり強。粘性中。	
II-㉔	A区土壌断面 トレーニチ	搅乱埋土	明黄褐色粘土(10YR6/8)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
II-㉕	A区土壌断面 トレーニチ	搅乱埋土	黒褐色粘土(7.5YR3/1)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・明黄褐色粘土(10YR6/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。黒色土(7.5YR1.7/1)ブロック若干混じる。しまり強。粘性強。	

第8表 A区土層記号一覧(4)

層名	確認場所	性質	特徴	備考
II-⑩	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	明黄褐色粘土(10YR6/8)に明黄褐色粘土(10YR6/8)主体。にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。黒色粘土(7.5YRI.7/1)ブロック少量混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑪	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	褐色粘土(7.5YR4/3)に明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック混じる。黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック少量混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑫	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	明黄褐色粘土(10YR6/8)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック若干混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑬	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	明黄褐色粘土(10YR7/3)に明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑭	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	明黄褐色粘土(10YR6/8)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック若干混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑮	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	明黄褐色粘土(10YR6/8)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック若干混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑯	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	明黄褐色粘土(10YR6/8)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック若干混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑰	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	暗褐色粘土(7.5YR2/3)に明黄褐色粘土(10YR6/8)均一に混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑱	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	暗褐色粘土(7.5YR3/3)に明黄褐色粘土(10YR6/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑲	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	明黄褐色粘土(10YR6/8)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
II-⑳	A区土壌断面 トレンチ	搅乱埋土	黒褐色粘土(7.5YR2/2)に明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック粒子混じる。しまり強。粘性中。	
III-1	A区西壁	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR3/1)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック混じる。しまり中。粘性中。	
III-2	A区西壁	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック少量、φ2cm大亞円礫混じる。しまり中。粘性中。	
III-3	A区西壁	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック少量、φ1cm大亞円礫混じる。しまり中。粘性中。	
III-4	A区西壁	近世堆積層	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック混じる。しまり強。粘性中。	
III-5	A区西壁	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR3/1)に明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック少量混じる。しまり中。粘性中。	
III-6	A区西壁	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR2/2)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
III-7	A区西壁	近世堆積層	灰褐色粘質土(7.5YR4/2)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック多く・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック少量混じる。しまり強。粘性強。	
III-8	A区西壁	近世堆積層	黑色粘質土(7.5YR2/1)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
III-9	A区土層ベルト	近世堆積層	褐色粘質土(7.5YR4/3)に亜円礫φ2~3cm若干混じる。しまり中。粘性中。	近世表土層
III-10	A区土層ベルト	近世堆積層	灰褐色粘質土(7.5YR4/2)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック若干混じる。亜円礫φ3~5cm少量混じる。炭化物粒子微量混じる。しまり強。粘性中。	
III-11	A区土層ベルト	近世堆積層	にぶい褐色粘土(7.5YR5/4)に明黄褐色粘土(10YR6/8)主体。しまり強。粘性強。	
III-12	A区土層ベルト	近世堆積層	褐色粘土(7.5YR4/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック混じる。亜円礫φ1~2cm混じる。しまり強。粘性強。	
III-13	A区土層ベルト	近世堆積層	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)に明黄褐色粘土(10YR6/8)主体と明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	

第9表 A区土層記述一覧(5)

層名	確認場所	性質	特徴	備考
III-14	A区土層ベルト	近世堆積層	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
III-15	A区土層ベルト	近世堆積層	暗褐色粘質土(7.5YR3/4)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
III-16	A区土層ベルト	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック少量混じる。亜円礫φ2~3cm混じる。しまり強。粘性中。	
III-17	A区土層ベルト	近世堆積層	灰褐色粘質土(7.5YR4/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック均一に混じる。しまり強。粘性強。	
III-18	A区土層ベルト	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック若干混じる。亜円礫φ2~3cm混じる。炭化物粒子混じる。しまり強。粘性中。	
III-19	A区土層ベルト	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に明黄褐色粘土(10YR6/8)粒子混じる。炭化物粒子混じる。しまり強。粘性中。	
III-20	A区土層ベルト	近世堆積層	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。炭化物粒子混じる。しまり中。粘性中。	
III-21	A区土層ベルト	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR2/2)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック少量混じる。しまり中。粘性強。	
III-22	A区土層ベルト	近世堆積層	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック少量混じる。亜円礫φ1~3cm混じる。しまり弱。粘性中。	
IV-1	A区西壁	土壌盛土	にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック主体、黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック少量・明赤褐色粘土(5YR5/8)・明黄褐色粘土(10YR6/8)粒子混じる。しまり強。粘性強。	
IV-2	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(7.5YR4/3)に明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック主体、明赤褐色粘土(5YR5/8)・黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック少量混じる。しまり強。粘性強。	
IV-3	A区西壁	土壌盛土	にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)主体、明赤褐色粘土(5YR5/8)粒子混じる。しまり強。粘性強。	
IV-4	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(7.5YR4/3)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)主体、明赤褐色粘土(5YR5/8)・黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-5	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(7.5YR4/6)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)主体、明赤褐色粘土(5YR5/8)多く、黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-6	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(7.5YR4/4)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック主体、黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック少量混じる。やや砂質。しまり強。粘性中。	
IV-7	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(7.5YR4/3)にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック多く、明赤褐色粘土(5YR5/8)粒子混じる。しまり強。粘性強。	
IV-8	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(7.5YR4/4)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック等量混じる。しまり強。粘性強。	
IV-9	A区西壁	土壌盛土	にぶい褐色粘土(7.5YR5/4)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)小ブロック混じる。しまり強。粘性強。	

第10表 A区土層注記一覧(6)

層名	確認場所	性質	特徴	備考
IV-10	A区西壁	土壌盛土	にぶい褐色粘土(7.5YR5/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)主体。明赤褐色粘土(5YR5/8)縞状に入る。しまり強。粘性強。	
IV-11	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(7.5YR4/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)・黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック多く混じる。しまり強。粘性強。	
IV-12	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(7.5YR4/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック主体。明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック混じる。黒褐色粘土(7.5YR3/2)ブロック若干混じる。しまり強。粘性強。	
IV-13	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(10YR4/4)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック等量混じる。明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-14	A区西壁	土壌盛土	暗褐色粘土(10YR3/3)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-15	A区西壁	土壌盛土	にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)特大ブロック主体。明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-16	A区西壁	土壌盛土	褐色粘土(10YR4/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック主体。しまり強。粘性強。	
IV-17	A区土層ベルト	土壌盛土	褐色粘土(7.5YR4/6)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黄褐色粘土(10YR6/8)ブロック主体。亜円礫φ2~5cm若干混じる。しまり強。粘性強。	
IV-18	A区土層ベルト	土壌盛土	明褐色粘土(7.5YR5/6)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・明黄褐色粘土(10YR6/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック主体。亜円礫φ1~5cm混じる。しまり強。粘性強。	
IV-19	A区土層ベルト	土壌盛土	にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)大ブロック主体。しまり強。粘性強。	
IV-20	A区土層ベルト	土壌盛土	褐色粘土(10YR4/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック多く混じる。しまり強。粘性強。	
IV-21	A区土層ベルト	土壌盛土	灰褐色粘土(7.5YR5/2)に明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)ブロック均一に混じる。亜円礫φ5cm若干混じる。しまり強。粘性強。	
IV-22	A区土層ベルト	土壌盛土	にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。亜円礫φ3~10cm混じる。しまり強。粘性強。	
IV-23	A区土層ベルト	土壌盛土	にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)大ブロック主体的に混じる明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-24	A区土層ベルト	土壌盛土	黄褐色粘土(10YR5/6)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック主体。しまり強。粘性強。	
IV-25	A区土層ベルト	土壌盛土	にぶい黄褐色粘土(10YR4/3)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-26	A区土層ベルト	土壌盛土	明褐色粘土(7.5YR5/6)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロックを混じる。しまり強。粘性強。	
IV-27	A区土層ベルト	土壌盛土	明褐灰色粘土(7.5YR7/2)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/3)ブロック主体。明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	

第11表 A区土層記号一覧(7)

層名	確認場所	性質	特徴	備考
IV-28	A区土層ベルト	土壌盛土	灰褐色粘土(7.5YR4/2)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明黃褐色粘土(10YR6/8)粒子混じる。亜円縫φ3cm少量混じる。しまり強。粘性強。	
IV-29	A区土層ベルト	土壌盛土	にぶい褐色粘土(7.5YR5/3)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)・明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック多く混じる。亜円縫φ15cm若干混じる。しまり強。粘性強。	
IV-30	A区土層ベルト	土壌盛土	明褐色砂質土(7.5YR5/6)にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック主体。極細粒砂混じる。しまり中。粘性中。	
IV-31	A区土層ベルト	土壌盛土	明黃褐色粘土(10YR6/8)に明黃褐色粘土(10YR6/8)小ブロック主体。しまり強。粘性強。	
IV-32	A区土層ベルト	土壌盛土	灰褐色粘土(7.5YR4/2)に明黃褐色粘土(10YR6/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/4)・明赤褐色粘土(5YR5/8)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-33	A区土層ベルト	土壌盛土	暗褐色粘土(7.5YR3/4)に明黃褐色粘土(10YR6/8)粒子均一に混じる。しまり中。粘性強。	
IV-34	A区土層ベルト	土壌盛土	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)に明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック多く、明赤褐色粘土(5YR5/8)・にぶい黄橙色粘土(10YR7/3)粒子若干混じる。黒褐色粘質土(7.5YR3/1)ブロック混じる。しまり中。粘性中。	
IV-35	A区土層ベルト	土壌盛土	黒褐色粘質土(7.5YR3/1)。しまり中。粘性中。	
IV-36	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	極暗褐色粘土(7.5YR2/3)に明黃褐色粘土(10YR6/8)小ブロック均一に混じる。しまり強。粘性中。	
IV-37	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	極暗褐色粘質土(7.5YR2/3)に明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック構造に混じる。しまり強。粘性中。	
IV-38	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	黒色粘質土(7.5YR2/1)に黒色粘質土(7.5YR2/1)・明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック少量混じる。しまり強。粘性中。	
IV-39	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	黒褐色粘質土(7.5YR3/1)に明黃褐色粘土(10YR6/8)粒子混じる。しまり強。粘性中。	
IV-40	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	黒色粘質土(7.5YR2/1)に明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック混じる。しまり強。粘性中。	
IV-41	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	暗褐色粘土(7.5YR3/3)に明黃褐色粘土(10YR6/8)粒子多く混じる。しまり強。粘性中。	
IV-42	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	黒色粘質土(7.5YR2/1)に黑色粘質土(7.5YR4/1)混じる。しまり強。粘性中。	
IV-43	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	黒褐色粘土(7.5YR2/2)に明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック均一に混じる。黒色粘質土(7.5YR2/1)混じる。しまり強。粘性中。	
IV-44	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	褐灰色粘質土(7.5YR4/1)に明黃褐色粘土(10YR6/8)ブロック少量混じる。しまり強。粘性中。	
IV-45	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	明黃褐色粘土(10YR6/8)に明黃褐色粘土(10YR6/8)多く混じる。しまり強。粘性強。	
IV-46	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	黒色粘質土(7.5YR2/1)に明黃褐色粘土(10YR6/8)粒子・ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-47	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	暗褐色粘土(7.5YR3/4)に明黃褐色粘土(10YR6/8)多く混じる。黒色粘質土(7.5YR2/1)ブロック混じる。しまり強。粘性強。	
IV-48	A区土壌断割 トレーナー	土壌盛土	明黃褐色粘土(10YR6/8)に黒色粘質土(7.5YR2/1)少量混じる。しまり強。粘性強。	
V-4	A区土壌断割 トレーナー	地山ローム層	明褐色粘土(7.5YR5/6)に亜円縫φ5~10cm混じる。しまり強。粘性強。	
V-5	A区土壌断割 トレーナー	段丘疊層	橙色粘土(7.5VR6/6)に亜円縫φ1~20cm多く混じる。しまり強。粘性強。	

第12表 B区土層注記一覧

層名	場所	性質	特徴	備考
I-2	B区東壁 B区北壁	表土	黒褐色粘質土(7.5YR2/2)に漆喰片多く混じる。しまり中。粘性中。	
II-29	B区東壁	近代 ～現代造成土	にぶい黄橙色粘質土(10YR6/4)に漆喰片を多く混じる。しまり中。粘性強。	宅地造成土
II-30	B区東壁	近代 ～現代造成土	黒褐色粘質土(10YR2/2)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。しまり中。粘性中。	宅地造成土
II-31	B区東壁	近代 ～現代造成土	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。しまり中。粘性中。	宅地造成土
II-35	B区東壁 B区北壁	搅乱埋土	極暗褐色粘質土(7.5YR2/3)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。しまり弱。粘性中。	
II-36	B区東壁 B区北壁	搅乱埋土	暗褐色粘質土(7.5YR3/4)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。しまり弱。粘性中。	
II-37	B区東壁	搅乱埋土	にぶい褐色粘質土(7.5YR5/3)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。しまり弱。粘性中。	
II-38	B区東壁	搅乱埋土	暗褐色粘質土(7.5YR3/3)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。しまり中。粘性中。	
II-39	B区東壁	搅乱埋土	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。しまり中。粘性中。	
II-40	B区東壁	搅乱埋土	褐色粘質土(10YR4/6)ににぶい黄橙色粘土(10YR7/4)小ブロック多く混じる。しまり中。粘性中。	
II-41	B区東壁	搅乱埋土	黒色粘質土(7.5YR2/1)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。しまり弱。粘性中。	
II-42	B区北壁	搅乱埋土	黒褐色粘質土(7.5YR3/2)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。しまり中。粘性中。	
II-43	B区北壁	搅乱埋土	黒褐色粘質土(10YR2/3)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック多く混じる。亜円礫φ1～2cm混じる。しまり中。粘性中。	
II-44	B区北壁	搅乱埋土	褐色粘質土(7.5YR4/3)に褐色粘土(7.5YR4/4)ブロック混じる。亜円礫φ1～2cm混じる。しまり中。粘性中。	ガラス片混じる。
II-45	B区北壁	搅乱埋土	黒褐色粘質土(5YR3/1)に褐色粘土(7.5YR4/4)小ブロック混じる。亜円礫φ1～3cm混じる。炭化物粒子混じる。しまり弱。粘性中。	
V-1	B区下層断割 トレンチ	旧表土層	黒褐色粘質土(10YR2/2)に炭化物粒子微量混じる。しまりあり。粘性中。	
V-2	B区下層断割 トレンチ	漸移層	黒褐色粘質土(10YR2/3)に黄褐色粘土(10YR5/6)粒子を少量混じる。炭化物粒子微量混じる。しまりあり。粘性中。	
V-3	B区下層断割 トレンチ	地山ローム層	黄褐色粘土(10YR5/6)。しまり強。粘性強。	
V-5	B区下層断割 トレンチ	基盤段丘縁層	橙色粘土(7.5YR6/6)に砂礫φ1～20cm多く混じる。しまり強。粘性強。	
V-6	B区下層断割 トレンチ	段丘縁層	褐色砂礫(7.5YR4/4)に砂礫φ2～15cm主体。白色粒子全体に混じる。しまり強。粘性強。	

掘削された可能性が考えられる。北側1/3の範囲においては大型の搅乱孔同様に第II層の堆積が確認されたことと、近世の遺物に混ざって近代の遺物も含まれていたことから、同様に搅乱孔として掘下げを行っていたが、途中より堆積土の状況に変化が認められ（第III層）、近代の遺物を含まなくなっここと、土壌と思われる盛土層（IV層）が確認されたことから、サブトレンチにより土層断面の状況を確認しながら掘下げたところ、土壌の法面部が検出された。法面部は大型の搅乱孔により部分的に壊されているものの全体としては形状をよく留めている。この部分に近世堆積層である第III層が被覆していることから、近代以降の改変を受けていないことは明らかである。第III層のほとんどは地山ブロック土を含んでおり、土壌崩落に伴う堆積土であるが、III-9層のように土壤化が認められる層もあり近世の表土も含まれる。土壌裾部においては土層ベルトにおいて幅1.1m程の落込みが確認されており、不明瞭ながら根切り上の溝が掘削されていた可能性があるが、時期は明らかではない。なお、第III層が確認されるのは調査した範囲では北側に限られていることから、東西および南側については土壌は削平を受けているものと思われる。土壌法面部はほぼ矩形で途中に武者走などの構造は確認できない。また、柱穴などの遺構も検出されなかった。法面傾斜角度は調査区西壁側で約30°、土層ベルト側で約38°、裾部における軸方向はN-82°-Wである。土壌の盛土の状況は3か所のトレンチにおいて確認している。第IV層が盛土層であるが、にぶい黄褐色～明赤褐色粘土・黒褐色粘土のブロックを多く含む層が中心である。このブロック土は地山由来のものであり、土壌盛土の確保にあたって地山層が用いられたことが明らかであり、段丘疊層下の粘土も含まれることから堀の掘削土などが充てられたことが伺える。盛土の状況は法面部を除くと総じて西側に傾斜する傾向が観取され、層厚は10～20cm程度でまりは強いが、版築状に緻密に突き固められている状況ではない。土壌断面トレンチにおいて基底面を検出しているが、盛土下に旧表土層は確認されず地面上に直接積上げている状況であった。このことから土壌盛土にあたっては地山面を平坦に削平した後に行われているものと思われるが、三の丸郭内の整地との関係については明らかにできなかった。

このような調査の結果、A区において南北約11.3m、東西約13.7mの範囲で高さ約3.3mの土壌が確認された。

正保元年(1644年)「出羽国秋田郡久保田城画図」(第18図)によれば、調査対象地は大手口の枡形に面する部分にあたり、土壌と外堀が屈曲し二層の隅櫓も描かれている。今回の調査では搅乱の影響もあり不明瞭な点もあるが、A区の北東隅の土壌裾部は直線的ではなく南側に屈曲するように見える。この部分の地籍境界も同様に屈曲しており絵図による土壌の屈曲部に当たる可能性も考えられる。

B区においては、表土層（第I層）下に宅地造成土（第II層）が確認されたが、直ぐに地山層（第V層）となつておらず、土壌盛土（第IV層）は確認されなかった。この地山面は土壌断面トレンチにおいて確認された地山面より更に25cm程深くなつておらず、全体に削平を受けているものと思われる。B区東側の隣接地には土壌の北側裾部と思われる高まりが僅かに残されていることから、本来はこの場所にも土壌が存在したことが伺える。地山面の標高値は西側で12.95m、東側で12.65mを測り東に下がる傾向にある。南側および南東側は宅地化した際に石垣が築かれ1.4mの比高を持つ。東側については法面が形成されており地籍境界となる。地山の状況は調査区の南東半分程が黒褐色粘質土で残りが段丘疊層であるが、この黒褐色粘質土は試掘調査によれば南側の地籍境界まで広がっていることが確認されている。調査最終段階でトレンチを設定して断面を行い地山の状況を確認したところ、南東に向かい緩やかに傾斜する状況が確認され、黒褐色粘質土層下にはローム層が確認された(第11図)。地山面では1辺0.6m程の方形土坑が整然と並ぶ状況で検出された。いず

れも山砂によって埋め戻されており安山岩による礎石が確認されることから、調査前に存在した住宅の基礎である。他の遺構については検出されなかった。

#### 第4節 遺物（第12～15図、第13・14表）

出土遺物の実測図を第12～15図に示し、遺物属性表を第13・14表に示した。

##### （1）A区出土遺物

###### 第I層出土遺物（第12図1）

（陶器 第12図1）

1はI-1層出土で、肥前系磁器染付皿である。内面見込みに葉文、外面体部下半に一重圓線、高台に二重圓線、高台内に一重圓線を染め付ける。疊付は無軸である。

###### 第II層出土遺物（第12図2～15、第14図36～38、第15図39～45）

###### II-①～②層（土壘搅乱部）

（土器・陶磁器等 第12図2～6）

2はII-①・⑩層、3・4はII-⑩・⑪層、5・6はII-⑫層出土である。2は瀬戸美濃系陶器仏飯器である。内面見込みに昆虫文を染め付け、外面体部に鉄軸を施す。高台は露胎し、高台内には兜巾が認められる。3は肥前系青磁瓶である。高台は無軸であり、高台内には兜巾が認められる。4は肥前系の青磁鉢である。内面にヘラ彫文様が施され、兜巾状突起が認められる。蛇の目回型高台である。5は磁器の染付碗である。型紙摺絵により、西洋コバルトで染め付ける。6はガラスの目薬瓶である。青の気泡ガラス製の両口式点眼瓶であり、外表面はエンボス加工を施す。昭和6年（1931）ロート製薬が開発したものである。

###### II-1～28層（土壘北側造成土）

（土器・陶磁器等 第12図8～15）

8・9はII-11・12層、10はII-13層、11～15はII層（細別不明）出土である。8は肥前系陶器鉄軸溝縁皿である。内外面に鉄軸を施し、内面と底部に砂目痕があり、底部には回転糸切り痕がみられ、高台は露胎である。全体に煤が付着する。9は磁器の染付碗である。外面に草文を染め付ける。高台内の方形枠内に銘があるが、判読不明である。10は肥前系磁器染付皿である。内面見込みに二重圓線とねじ花文を染め付け、底部は幕筋底状である。11は型押し成形の非クロコ製の手づくねのかわらけである。口縁部内外面に横方向のナデ調整、外面体部下半にナデ調整を施す。全般的に摩耗している。12・13は磁器の染付碗である。いずれも型紙摺絵により、西洋コバルトで染め付ける。14は肥前系磁器染付蓋付鉢の蓋である。外表面は牡丹唐草文を染め付ける。紐は割れ口の形状から熨斗形を貼り付けたものと考えられる。15は凝灰岩製砥石である。上端部・下端部が破損し、四面に擦痕がみられる。

（銭貨 第12図7）

7はII-1層出土で、昭和34（1959）年に製造発行された100円銀貨である。表は「昭和34年 100円」と分銅の図柄、裏は「日本国 百円」と稲穂の図柄である。

（瓦 第14図36～38、第15図39～45）

36はII-1層、37～39はII-13層、40はII-23層、41～45はII層（細別不明）出土である。36～38は灰色・銀色を呈するいぶし瓦の棟瓦で、胎土は緻密で焼成堅緻である。36は外面縦ナデ調整、内面横ナデ調整、37は内面横ナデ後、端部縦ナデ調整、38は内外面横ナデ後、端部縦ナデ調整を施す。39は灰色・銀色・黒色を呈するいぶし瓦の棟瓦である。胎土は緻密で焼成堅緻である。内外面横ナデ後、端部縦ナデ調整を施す。40は

暗赤褐色を呈する赤瓦の棟瓦である。41は黒色を呈するいぶし瓦の棟瓦であり、胎土は粗い。42は暗赤褐色を呈する赤瓦の雁振瓦である。内面横ナデ後、縦ナデ調整を施す。43～45は灰色・銀色を呈するいぶし瓦である。43は雁振瓦、44・45は面戸瓦でいずれも胎土は緻密で焼成堅緻である。

### 第III層出土遺物（第13図16～31、第14図32・33、第15図46～48）

#### III-1～22層（土壘北側堆積層）

##### （土器・陶磁器 第13図16～31、第14図32）

16・17はIII-9層、18はIII-14層、19～26はIII-17層、27はIII-20層、28・29はIII-21層、30～32はIII-22層出土である。16は肥前系灰釉陶器皿である。内面見込みに蛇の目釉剥ぎ、外面体部下半にケズリ痕があり、高台の疊付は無釉である。17は産地不明の陶器の擂鉢である。内外面に鉄軸を施す。18は肥前系陶器刷毛目文鉢である。内面に白化粧土の波状文が施され、砂目痕があり、高台は無釉である。19・20は肥前系磁器染付碗である。外面口縁部に二重圓線、いずれも体部に草花文を染め付けるが、20は内面口縁部にも一重圓線を染め付ける。21は肥前系磁器染付変形皿である。内面内側に型打による陽刻文様を施し、見込みに牡丹文、外面体部に花唐草文を染め付ける。22は肥前系磁器染付輪花皿である。口縁部内面に花唐草文を染め付ける。23は肥前系白磁皿である。内面見込みに蛇の目釉剥ぎがあり、外面体部下半から高台は無釉である。24は肥前系灰釉陶器皿である。内外面に灰釉を施すが、外面体部下半は無釉である。25は肥前系灰釉陶器碗である。内外面に薙灰釉、外面体部に鉄軸で絵柄を施すが、外面体部下半は無釉である。26は肥前系陶器甕である。内面はナデ調整を施す。外面に鉄軸を施し、粗い格子目の叩き痕が認められる。27は肥前系白磁小皿である。内面見込みに蛇の目釉剥ぎがあり、アルミナ砂を塗布している。高台は無釉で、高台は削り出して作出している。28は産地不明の陶器の擂鉢である。内外面は無釉であり底部は平底で粗い削りである。擂目は浅くなっている。29は瀬戸美濃系陶器染付碗である。口縁部外面に二重圓線、圓線の間に荒い山状の文様が連続に入り、外面体部に草文を染め付ける。30は型押し成形の非ロクロ製の手づくねのかわらけである。口縁部外面に横方向のナデ調整、外面体部下半にナデ調整を施す。31は肥前系陶器刷毛目文鉢である。口縁部内外面に白化粧土による刷毛目文、内面体部には波状文を施す。32は産地不明の陶器の片口の擂鉢である。被熱を受けて劣化している。

##### （錢貨 第14図33）

33はIII-22層出土で、「寛永通寶」である。半分欠損し「永」「寶」の文字のみ確認できる。

##### （瓦 第15図46～48）

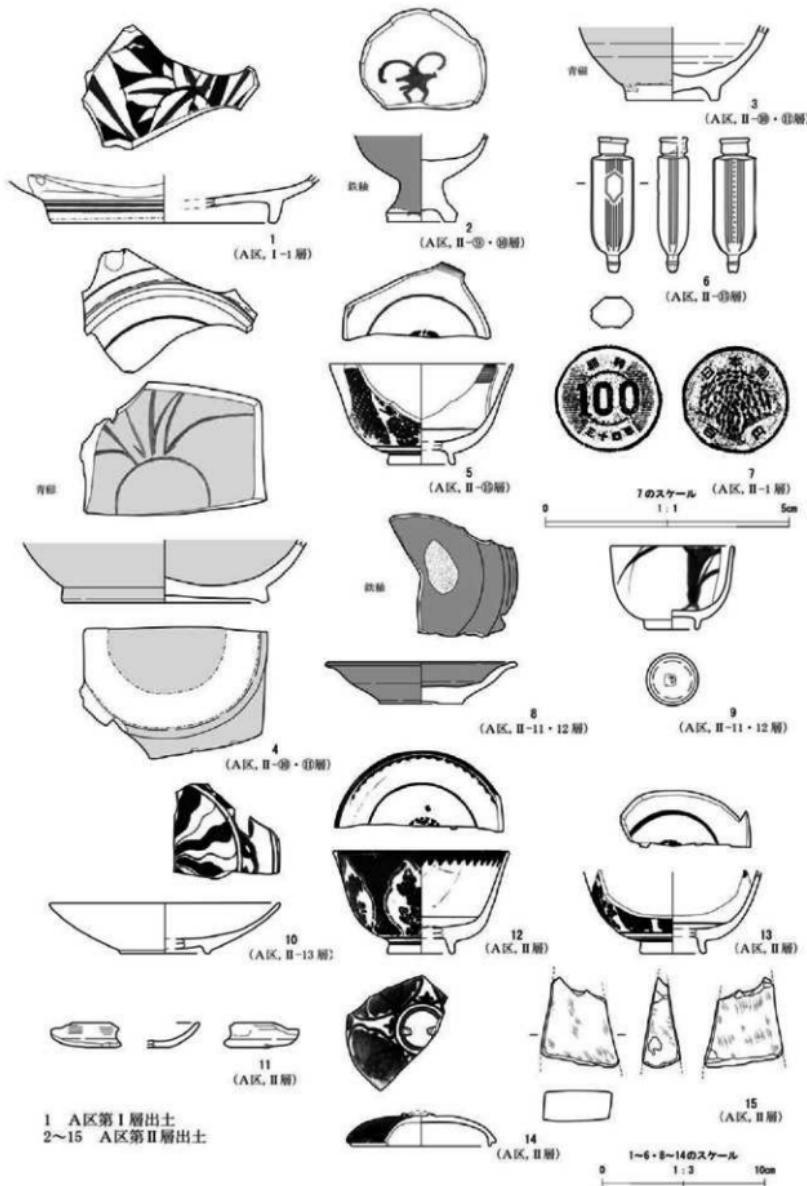
46はIII-9層、47・48はIII-22層出土である。46は灰色・銀色・黒色を呈するいぶし瓦の棟瓦である。胎土は緻密で焼成堅緻であり、外面縦ナデ調整を施す。47・48は灰色・銀色を呈するいぶし瓦である。47は棟瓦で48は吊穴が二箇所認められる熨斗瓦である。いずれも胎土は緻密で焼成堅緻である。

#### （2）B区出土遺物

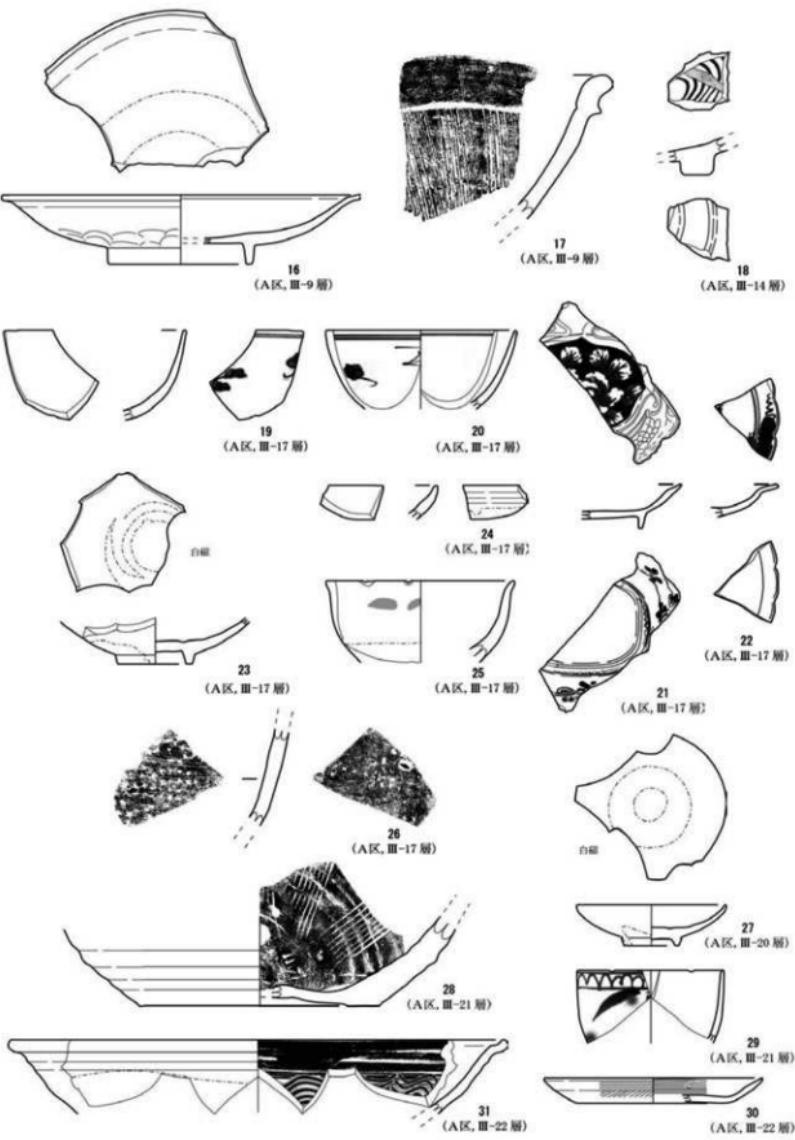
### 第I層出土遺物（第14図34・35）

##### （陶磁器 第14図34・35）

34・35はI-2層出土である。34は瀬戸美濃系陶器碗である。内外面に鉄軸が施され、高台は露胎し、台内に兜巾が認められる。35は肥前系白磁染付小皿である。内面見込みに蛇の目釉剥ぎがあり、アルミナ砂を塗布、松葉文を染め付ける。高台内は無釉であり、高台は削り出して作出している。



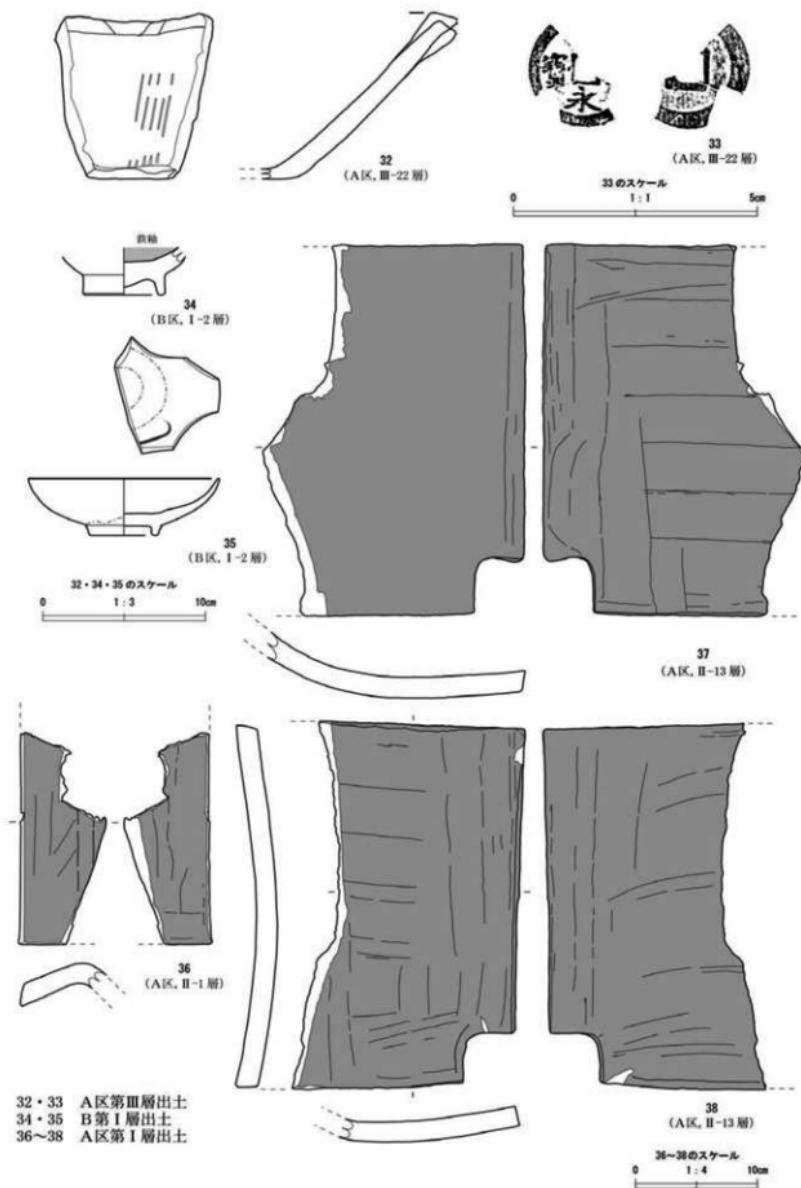
第12図 A区第2層出土遺物（土器・陶磁器等）



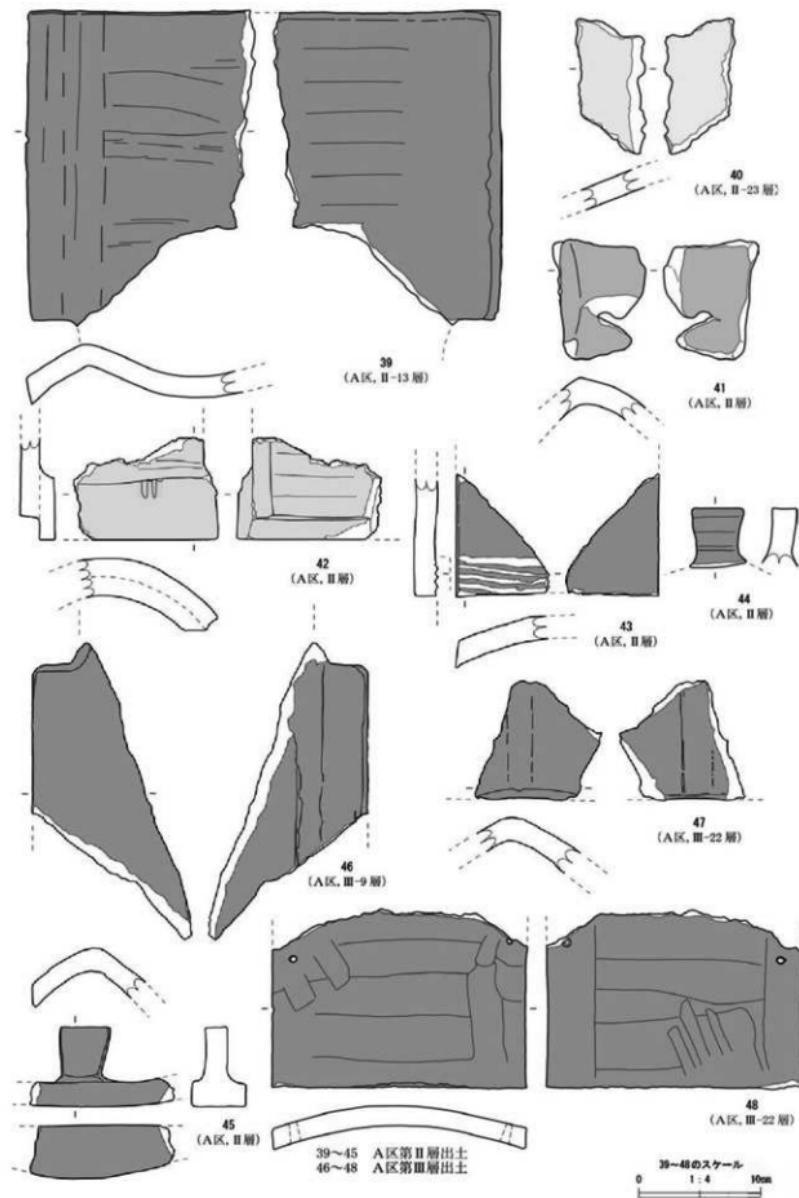
16~31 A区第III層出土

0 1:3 10cm

第13図 A区第III層出土遺物（土器・陶磁器等）



第14図 A区・B区出土遺物（土器・陶磁器等）、A区出土遺物（瓦）



第15図 A区出土遺物（瓦）

第13表 遺物属性表(1)

遺物No.	図版番号	調査区	グリッド	出土地点・層位	分類	器種	特徴	備考	
1	12回	A区	MA50	I-1層	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面見込みに葉文、外面部下半に一重圓線、高台に二重圓線、高台内に一重圓線を染め付ける。豊付無軸。底径14.0cm	肥前III・IV期。1680～1700年代。	
2	12回	A区	LZ49	II-⑩・⑪層 (土壌擾乱部)	陶器	仏飯器	瓶	瀬戸美濃系。鉄軸仏飯器。内面見込みに昆虫文、外面に鉄軸、高台露胎。高台内兜巾。底径4.2cm	19世纪代。
3	12回	A区	LZ49	II-⑩・⑪層 (土壌擾乱部)	磁器	瓶	肥前系。青磁瓶。外面青磁、内面兜巾状突起、高台無軸、高台内兜巾。底径5.6cm	肥前II-2期。1630～1650年代。	
4	12回	A区	LZ49	II-⑩・⑪層 (土壌擾乱部)	磁器	鉢	肥前系。青磁鉢。内面にヘラ彫文様を施す。兜巾状突起有、蛇の目回型高台。底径12.6cm	肥前III期。1650～1690年代。	
5	12回	A区	LZ49	II-⑯層 (土壌擾乱部)	磁器	碗	型紙模様の染付碗。西洋コバルトで染め付ける。口径11.2cm、底径4.0cm	明治期。	
6	12回	A区	LZ49	II-⑯層 (土壌擾乱部)	ガラス製品	日用瓶	口凹式点眼瓶。青の気泡ガラス、エンボス加工。昭和6年(1931) ロート製薬開発。	昭和6年以降。	
7	12回	A区	MB48	II-1層 (土壌北側造成土)	裁貨		100円銀貨。裏「昭和34年 100円」図柄分銅。裏「日本国 百円」図柄船锚。外径2.3cm、厚0.2mm	1959年(昭和34年)。	
8	12回	A区	LZ50	II-11・12層 (土壌北側造成土)	陶器	皿	肥前系。鉄軸溝隠。内外面に鉄軸。内面・底部に砂目底。高台露胎。底部に回転系切り痕。全体に煤が付着。口径11.2cm、底径4.8cm	肥前II期。1610～1650年代。	
9	12回	A区	LZ50	II-11・12層 (土壌北側造成土)	磁器	碗	染付碗。外面体部に草文を染め付ける。高台内に方形枠内に鉢あり、色が薄く判読できず。口径7.6cm、底径3.2cm	19世纪代。	
10	12回	A区	LZ50	II-13層 (土壌北側造成土)	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面見込みに二重圓線とねじ花文を染め付ける。底部は基筋底状。口径14.2cm、底径5.6cm	肥前II-2期。1630～1650年代。	
11	12回	A区	LZ50	II層 (土壌北側造成土)	土器	かわらけ	型押し成形の非クロコ製手づくね。口縁部内外面に横方向のナデ調整。外面体部下半にナデ調整。全体的に摩耗している。	近世。	
12	12回	A区	LZ51	II層 (土壌北側造成土)	磁器	碗	型紙模様の染付碗。西洋コバルトで染め付ける。口径10.6cm、底径4.2cm、器高6.3cm	明治期。	
13	12回	A区	LZ50	II層 (土壌北側造成土)	磁器	碗	型紙模様の染付碗。西洋コバルトで染め付ける。底径4.2cm	明治期。	
14	12回	A区	LZ51	II層 (土壌北側造成土)	磁器	蓋	肥前系。染付蓋付蓋の蓋。外面に牡丹唐草文を染め付ける。紐は割れ口の形状から熨斗形を貼りつけたものか。口径8.6cm	肥前V期。1780～1860年代。	
15	12回	A区	LZ50	II層 (土壌北側造成土)	石製品	砥石	凝灰岩製。上端部・下端部が破損。四面に擦痕がみられる。		
16	13回	A区	LZ50	III-9層 (土壌北側堆積層)	陶器	皿	肥前系。灰軸陶器皿。内面見込み蛇の目軸剥ぎ。外面部体下半にケズリ痕。高台豊付無軸。口径22.0cm、底径8cm	肥前V期。1780～1860年代。	
17	13回	A区	LZ50	III-9層 (土壌北側堆積層)	陶器	擂鉢	产地不明。内外面に鉄軸を施す。擂目7～8本。1.0～2.0mm幅。		
18	13回	A区	LZ50	III-14層 (土壌北側堆積層)	陶器	鉢	肥前系。刷毛目文鉢。内面に白化粧土の波状文を施し、その上に砂目瓶がある。高台無軸。	肥前IV～V期。1690～1860年代。	
19	13回	A区	LZ50	III-17層 (土壌北側堆積層)	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面口縁部に二重圓線、体部に草花文を染め付ける。	肥前III期。1650～1690年代。	
20	13回	A区	LZ50	III-17層 (土壌北側堆積層)	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面口縁部に二重圓線、体部に草花文、内面口縁部に一重圓線を染め付ける。口径11.8cm	肥前III期。1650～1690年代。	
21	13回	A区	LZ50	III-17層 (土壌北側堆積層)	磁器	変形皿	肥前系。染付変形皿。内面内側に型打による陽刻文様を施す。見込みに牡丹文、外面体部に花唐草文を染め付ける。	肥前III期。1650～1690年代。	
22	13回	A区	LZ50	III-17層 (土壌北側堆積層)	磁器	輪花皿	肥前系。染付輪花皿。口縁部内面に花唐草文を染め付ける。	肥前III期。1650～1690年代。	
23	13回	A区	LZ50	III-17層 (土壌北側堆積層)	磁器	皿	肥前系。白磁皿。内面見込み蛇の目軸剥ぎ。外面部体下半から高台は無軸。底径4.6cm	肥前IV期。1690～1780年代。	

第14表 遺物属性表（2）

遺物No. 番号	国版 調査区 域	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考	
24	13回	A区	L250	III-17層 (土壠北側堆積層)	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器里。外面体部下半は無釉。	肥前二期。1610~1650年代。
25	13回	A区	L250	III-17層 (土壠北側堆積層)	陶器	碗	肥前系。灰釉陶器碗。蓋灰釉。外面に鉄袖で絵柄を施す。外面体部下半は無釉。口径11.5cm。	肥前一期。1580~1610年代。
26	13回	A区	L250	III-17層 (土壠北側堆積層)	陶器	甕	肥前系。内外面に鉄袖を施す。内外面に粗い格子目の叩き痕。内面にナデ調整。	17世紀前半。
27	13回	A区	MA50	III-20層 (土壠北側堆積層)	磁器	皿 (小皿)	肥前系。白磁小皿。内面見込み蛇の目釉割ぎ、アルミナ砂の塗飾。高台外削り出し。	肥前IV期。1690~1780年代。
28	13回	A区	L250	III-21層 (土壠北側堆積層)	陶器	擂鉢	产地不明。内外面無釉。底部は平底。粗い削り。擂目が浅い。使用により摩耗している。擂目日本。1.5mm幅。底径3.4cm。	
29	13回	A区	L250	III-21層 (土壠北側堆積層)	陶器	碗	瀬戸美濃系。染付碗。口縁部外間に二重輪縁。圓線間に粗い山状の文様が連続に入る。体部に草文を染め付ける。口径9.0cm。	18世紀後半。
30	13回	A区	L250	III-22層 (土壠北側堆積層)	土器	かわらけ	型押し成形の菲ロクロ製手づくね。口縁部内外に横方向のナデ調整。外面体部下半ナデ調整。口径13.4cm。底径2.2cm。	近世。
31	13回	A区	L250	III-22層 (土壠北側堆積層)	陶器	鉢	肥前系。刷毛目文鉢。口縁部外間に白色斑土による刷毛目文。内面体部に波状文を施す。口径30.4cm。	肥前IV期。1690~1780年代。
32	14回	A区	L250	III-22層 (土壠北側堆積層)	陶器	擂鉢	产地不明。片口鉢。被熱を受けて劣化。擂目日本。1.5mm幅。	
33	14回	A区	L250	III-22層 (土壠北側堆積層)	錢貨		「梵水通寶」。半分欠損。「水」「寶」の文字のみ確認。	
34	14回	B区	LY48	I-2層	陶器	碗	瀬戸美濃系。铁袖碗。外面に鉄袖。高台露胎。高台内兜丸。底径5.0cm。	18世紀中葉。
35	14回	B区	LY48	I-2層	磁器	皿 (小皿)	肥前系。染付皿。内面見込みに蛇の目釉割ぎ。松葉文を染め付ける。アルミナ砂の塗布。高台外削り出し。高台内無釉。口径11.8cm。底径4.2cm。	肥前IV期。1690~1780年代。
36	14回	A区	MB48	II-1層 (土壠北側造成土)	瓦	棟瓦	灰色・銀色を呈するいぶし瓦。胎土緻密。焼成堅密。外面継ナデ。内面横ナデ。	Cタイプ
37	14回	A区	LZ50	II-1層 (土壠北側造成土)	瓦	棟瓦	灰色・銀色を呈するいぶし瓦。胎土緻密。焼成堅密。内面横ナデ後、端部継ナデ。	Cタイプ
38	14回	A区	LZ50	II-13層 (土壠北側造成土)	瓦	棟瓦	灰色・銀色を呈するいぶし瓦。胎土緻密。焼成堅密。内面横ナデ後、端部継ナデ。	Cタイプ
39	15回	A区	LZ50	II-13層 (土壠北側造成土)	瓦	棟瓦	灰色・銀色・黒色を呈するいぶし瓦。胎土緻密。焼成堅密。内面横ナデ後、端部継ナデ。	Cタイプ
40	15回	A区	LZ50	II-23層 (土壠北側造成土)	瓦	棟瓦	暗赤褐色を呈する赤瓦。	Bタイプ
41	15回	A区	LZ50	II層 (土壠北側造成土)	瓦	棟瓦	黒色を呈するいぶし瓦。胎土粗い。	Aタイプ
42	15回	A区	LZ50	II層 (土壠北側造成土)	瓦	雁板瓦	暗赤褐色を呈する赤瓦。内面横ナデ後、継ナデ。	Bタイプ
43	15回	A区	LZ50	II層 (土壠北側造成土)	瓦	雁板瓦	灰色・銀色を呈するいぶし瓦。胎土緻密。焼成堅密。	Cタイプ
44	15回	A区	LZ49	II層 (土壠北側造成土)	瓦	面戸瓦	灰色・銀色を呈するいぶし瓦。胎土緻密。焼成堅密。	Cタイプ
45	15回	A区	LZ51	II層 (土壠北側造成土)	瓦	面戸瓦	灰色・銀色を呈するいぶし瓦。胎土緻密。焼成堅密。	Cタイプ
46	15回	A区	LZ50	III-9層 (土壠北側堆積層)	瓦	棟瓦	灰色・銀色・黒色を呈するいぶし瓦。胎土緻密。焼成堅密。外面継ナデ。	Cタイプ
47	15回	A区	LZ50	III-22層 (土壠北側堆積層)	瓦	棟瓦	灰色・銀色を呈するいぶし瓦。胎土緻密。焼成堅密。	Cタイプ
48	15回	A区	LZ50	III-22層 (土壠北側堆積層)	瓦	質斗瓦	灰色・銀色を呈するいぶし瓦。吊穴が二箇所認められる。胎土緻密。焼成堅密。	Cタイプ

第15表 出土近世瓦一覧

瓦番号	掲載番号	グリッド	層位	タイプ	重量	種別	袋番号	瓦番号	掲載番号	グリッド	層位	タイプ	重量	種別	袋番号
1	14回 36	MB48	II-1	C	293	桟瓦	14	51	LZ50	II-13	C	132	不明	49	
2	14回 37	LZ50	II-13	C	1,840	桟瓦	49	52	LZ50	II-13	C	50	不明	49	
3	14回 38	LZ50	II-13	C	1,550	桟瓦	51	53	LZ50	II-13	C	24	不明	49	
4	15回 39	LZ50	II-13	C	1,380	桟瓦	51	54	LZ50	II-13	C	95	不明	49	
5	15回 40	LZ50	II-23	B	128	桟瓦	66	55	LZ50	II-13	C	69	不明	49	
6	15回 41	LZ50	II	A	145	桟瓦	58	56	LZ50	II-13	C	9	不明	49	
7	15回 42	LZ50	II	B	283	雁振瓦	57	57	MA50	II-13	C	118	不明	71	
8	15回 43	LZ50	II	C	147	雁振瓦	57	58	LZ50	II-23	C	131	不明	64	
9	15回 44	MB49	II	C	67	面戸瓦	12	59	LZ50	II-23	C	109	不明	64	
10	15回 45	LZ51	II	C	206	面戸瓦	53	60	LZ50	II-23	C	158	不明	64	
11	15回 46	LZ50	III-9	C	560	桟瓦	54	61	LZ50	II-23	C	81	不明	64	
12	15回 47	LZ50	III-22	C	193	桟瓦	61	62	LZ50	II	B	100	桟瓦	57	
13	15回 48	LZ50	III-22	C	920	熨斗瓦	61	63	LZ51	II	B	64	桟瓦	53	
14	MB50	I-1	B	49	面戸瓦	41	64	LZ50	II	C	76	桟瓦	57		
15	MB50	I-1	B	161	不明	41	65	LZ50	II	C	262	桟瓦	57		
16	LZ49	II-⑨・⑩	C	176	不明	24	66	LZ50	II	C	88	桟瓦	58		
17	LZ49	II-⑩	C	32	不明	33	67	LZ51	II	C	960	桟瓦	55		
18	MA49	II-⑩	C	143	桟瓦	31	68	LZ51	II	C	472	桟瓦	55		
19	MA49	II-⑩	C	58	桟瓦	31	69	LZ51	II	C	251	桟瓦	55		
20	MA49	II-⑩	B	490	不明	36	70	LZ50	II	C	658	桟瓦	57		
21	MA49	II-⑩	B	51	不明	36	71	LZ50	II	B	99	面戸瓦	58		
22	MA49	II-⑩	C	119	不明	31	72	LZ51	II	A	40	不明	53		
23	MA49	II-⑩	C	159	不明	31	73	LZ50	II	B	28	不明	57		
24	MB48	II-1	C	216	不明	8	74	LZ50	II	B	86	不明	57		
25	MB48	II-1	C	83	不明	8	75	LZ50	II	B	55	不明	57		
26	MB50	II-5	C	34	桟瓦	42	76	LZ50	II	B	74	不明	57		
27	MB51	II-5	C	284	桟瓦	43	77	LZ50	II	B	204	不明	57		
28	MB51	II-5	C	152	桟瓦	43	78	LZ50	II	B	31	不明	58		
29	MB51	II-5	C	314	桟瓦	43	79	LZ50	II	B	118	不明	58		
30	LZ50	II-12	C	215	桟瓦	29	80	LZ50	II	B	30	不明	58		
31	LZ50	II-13	C	252	桟瓦	51	81	LZ51	II	B	188	不明	55		
32	LZ50	II-13	C	120	桟瓦	51	82	LZ51	II	B	32	不明	53		
33	LZ50	II-13	C	42	桟瓦	51	83	LZ50	II	C	162	不明	57		
34	LZ50	II-13	C	413	桟瓦	49	84	LZ51	II	C	361	不明	53		
35	LZ50	II-13	C	412	桟瓦	49	85	LZ50	II	C	100	不明	58		
36	LZ50	II-13	C	102	桟瓦	49	86	LZ50	II	C	57	不明	58		
37	LZ50	II-13	C	81	桟瓦	49	87	LZ50	II	C	420	不明	58		
38	LZ50	II-13	C	94	桟瓦	49	88	LZ51	II	C	441	不明	55		
39	LZ50	II-13	C	63	桟瓦	49	89	LZ51	II	C	166	不明	55		
40	LZ50	II-13	C	47	桟瓦	49	90	LZ51	II	C	137	不明	55		
41	MA50	II-13	C	117	桟瓦	71	91	LZ51	II	C	141	不明	55		
42	LZ50	II-13	C	280	不明	51	92	LZ51	II	C	214	不明	55		
43	LZ50	II-13	C	132	不明	51	93	LZ51	II	C	32	不明	53		
44	LZ50	II-13	C	94	不明	51	94	LZ51	II	C	67	不明	53		
45	LZ50	II-13	C	442	不明	52	95	LZ51	II	C	53	不明	53		
46	LZ50	II-13	C	171	不明	52	96	LZ51	II	C	82	不明	53		
47	LZ50	II-13	C	126	不明	52	97	LZ51	II	C	72	不明	53		
48	LZ50	II-13	C	36	不明	52	98	LZ50	III-9	C	106	桟瓦	54		
49	LZ50	II-13	C	409	不明	49	99	LZ50	III-9	C	88	不明	54		
50	LZ50	II-13	C	219	不明	49	100	LZ50	III-17	A	40	不明	69		
							101	LZ50	III-22	C	34	不明	61		
							102	LZ50	III-22	C	125	不明	61		
							103	LZ50	III-22	C	120	不明	61		
							104	MB49	IV-7	C	84	桟瓦	16		
							105	MB49	IV-7	C	68	不明	16		
							106		拂土中	C	402	桟瓦	89		

## 第4章　まとめ

### 第1節　出土遺物と各遺構・各堆積層の年代について

出土遺物の年代から、検出された遺構と堆積層の年代について考察する。なお、主に出土している肥前系陶磁器の分類と年代推定については、大橋康二（1982）九州近世陶磁学会（2000）に従った（註1）。

A区の土壌に確認された大きな搅乱（II-①～②層）からは、近代以降の遺物が出土する。近世の肥前II～III期の17世紀代の磁器（第12図3・4）や19世紀代の瀬戸・美濃系陶器（第12図2）などの江戸時代の遺物が出土するものの、明治期の西洋コバルトを用いた型紙模絵の染付碗（第12図5）や、昭和6年以降に製造されたと考えられる目薬瓶（第12図6）などが出土している。これらのことから、土壌上に開けられた大きな搅乱は、近代以降によるものであると考えられ、目薬瓶が搅乱の下層の方のII-⑩層から出土していることから、戦前の昭和初期以降の現代であると考えられる。搅乱孔は土層が類似しており、比較的短期間に埋められた可能性がある。

土壌北側に堆積しているII-1～28層からは、明治期以降の近・現代の遺物が出土している。近世の肥前系陶磁器でII期の陶器鉄釉溝縁皿（第12図8）や磁器染付皿（第12図10）、肥前V期の磁器蓋（第12図14）、近世のかわらけ（第12図11）が出土するものの、最上層のII-1層から昭和34年の100円硬貨（第12図7）、II層から明治期の西洋コバルトを用いた型紙模絵の染付碗（第12図12・13）および19世紀代の染付碗（第12図9）が出土していることから、近代～現代に堆積した造成土であると考えられる。

土壌北側のIII層は、上述のような近・現代の遺物が混入しなくなる堆積層であり、近世の堆積層であると考えられる。比較的上層のIII-9層からは肥前V期の18世紀末から19世紀前半の陶器皿（第13図16）、III-14層からは肥前IV～V期の18世紀～19世紀前半の刷毛目文の鉢（第13図18）が出土する。一方、下層のIII-17層以下では、III-17層から久保田城創建期に近い年代を示す肥前I～II期の17世紀前半の灰釉陶器皿（第13図25）や灰釉陶器皿（第13図24）、陶器甕（第13図26）が出土するものの、肥前III期の17世紀後半の磁器（第13図19～22）、さらに肥前IV期の18世紀代の白磁皿（第13図23）が出土する。さらに下層のIII-20層からは肥前IV期の18世紀代の蛇の目釉剥ぎ痕のある白磁小皿（第13図27）、III-21層からは18世紀後半の瀬戸・美濃系陶器の染付碗（第13図29）、III-22層からは肥前IV期の18世紀代の刷毛目文鉢（第13図31）が出土している。これらのことから、出土遺物を見る限り、III-17層を境として、上層のIII-1～16層はおおむね19世紀前半、下層のIII-17～22層は18世紀代の堆積であると考えられる。このように、III層は陶磁器の年代がおおむね漸移的に推移していることから、近世を通して、徐々に堆積した層であるといえるだろう。

以上のように、陶磁器等の年代からみれば、A区の土壌上の搅乱（II-○層）と土壌北側のII層は近・現代の堆積層であるが、土壌北側に堆積したIII層は上層がおおむね19世紀前半、下層が18世紀代の堆積層であると考えられる。なお、A区検出の土壌は盛土層中から遺物が全く出土しないことから久保田城跡創建期（17世紀初頭）の遺構であると考えられる。

B区ではI-2層から瀬戸・美濃系の18世紀中葉の鉄釉碗（第14図34）、肥前IV期の染付皿（第14図35）が出土するが、モルタル片などと一緒に出土しているため、近世の遺物が混入したものと考えられる。

### 第2節　出土瓦について

以上のような陶磁器の他に、調査地点からは、瓦が一定量出土している。代表的なものを13点図示した（第

第16表 出土瓦のタイプ別種別一覧（点数比）

単位：点

タイプ	種別										合計	
	棟瓦		面戸瓦		雁振瓦		熨斗瓦		不明			
	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%
A	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.9	3	2.8
B	3	2.8	2	1.9	1	0.9	0	0.0	13	12.3	19	17.9
C	34	32.2	2	1.9	1	0.9	1	0.9	46	43.4	84	79.3
合計	38	35.9	4	3.8	2	1.8	1	0.9	61	57.6	106	100.0

※A=いぶし瓦（軟質）、B=赤瓦、C=いぶし瓦（灰・銀色、硬質）

第17表 出土瓦のタイプ別種別一覧（重量比）

単位：g

タイプ	種別										合計	
	棟瓦		面戸瓦		雁振瓦		熨斗瓦		不明			
	重量	%	重量	%	重量	%	重量	%	重量	%	重量	%
A	145	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	80	0.4	226	1.0
B	292	1.3	148	0.7	283	1.3	0	0.0	1,548	6.8	2,272	10.1
C	12,118	53.7	273	1.2	147	0.6	920	4.1	6,607	29.3	20,119	88.9
合計	12,555	55.6	421	1.9	430	1.9	920	4.1	8,235	36.5	22,561	100.0

14・15図）。棟瓦（第14図36～38、第15図39～41、46・47）が大半で、雁振瓦（第15図42・43）、面戸瓦（第15図44・45）、熨斗瓦（第15図48）が若干含まれている。

出土した瓦は胎土および色調から以下のように3つのタイプに分類することができる。

Aタイプ…胎土は褐色で軟質であり、表面は黒色を呈するもの。

Bタイプ…胎土は褐色で緻密であり、表面は暗赤褐色を呈するもの。

Cタイプ…胎土は灰色で緻密であり、表面は灰色・銀色・黒色を呈し、焼成が非常に良好で堅緻なもの。

胎土に直径1mm程度の白色粒がみられる。

いずれのタイプも釉薬はかかっていない。Aタイプは、中世的な要素を残すいぶし瓦である。Bタイプはいわゆる「赤瓦」で、「塩焼き瓦」とも呼称されており、焼成の最終段階で窯の中に食塩を投入させて赤褐色に発色させたものである。一般にこのような「赤瓦」・「塩焼き瓦」は吸水率が高く凍害に強いとされる。A・Bタイプは、秋田市内の近世遺跡で出土する場合がある。今回の調査でもII層からAタイプ1点（第15図41）、Bタイプ2点（第15図40・42）が出土している。今回最も出土量が多かったのは、Cタイプのもので、II層とIII層のものを10点図化した（第14図36～38、第15図39、43～48）。その他、図示しなかったものも含め、A～Bタイプの瓦の出土量は、第16・17表とのおりである（註2）。Cタイプは点数比で約80%、重量比で約90%であり大部分を占めていることがわかる。

このCタイプの瓦の産地は、高梨台遺跡の近世瓦窯であると考えられる。高梨台遺跡は雄物川左岸の標高約38mの手形山台地の西端に位置し、久保田城跡からは北北東に2.5kmの地点で、縄文時代の遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地として知られていた（五十嵐1967）。平成28・29年度、高梨台遺跡の北端で秋田市（都市整備部住宅整備課）による市営住宅建築工事に伴い、範囲確認調査を行ったところ、多量の瓦が出土した（第16図、秋田市教育委員会2017・2018）。過去の宅地造成によって原地形は削平されており、明確な遺構は発見されず発掘調査には至らなかったものの、瓦が融着した窓壁片と多量の瓦が出土しており、近世の瓦窯であると考えられる。今回の調査で多く発見されたCタイプの瓦と高梨台遺跡出土の瓦を比較したところ、同じ特徴がみられた（第16図1）。なお、高梨台遺跡ではBタイプの赤瓦も出土している（第16図2）。この他、秋田市では「寺内焼窯跡」（秋田市教育委員会1991）でも、瓦窯跡4基（2・4・5・6号窯）が発掘調査されており、BタイプとCタイプの瓦が出土している。しかし、寺内窯跡産のCタイプの瓦については、本遺跡のCタイプよりも胎土はやや褐色味を帯び、焼成もさほど堅緻ではない。したがって、本遺跡のCタイプ

の瓦は寺内窯産ではなく、高梨台遺跡産であると考えられる。

近世の瓦窯についての文献史料として、「八丁夜話」がある。「八丁夜話」は、秋田藩士・橋本五郎左衛門秀実（1784～？）の私記であるが、文政9年（1826）に秋田藩の瓦生産について下記のような記述がある（井上・相沢1972：347-348頁）。

- ①藩内には瓦座が寺内と新藤田の2カ所にあったこと。
- ②両座は、かつて小田野毛（小田野喜斎）が、越前より職人を招き瓦の試作品を作らせたことがきっかけで始まったこと。
- ③その後、小田野毛の尽力により、寺内・新藤田の瓦座は秋田藩随一の生産量を誇るようになったこと。
- ④しかし、文政9年（1826）には藩が財政難で、どちらか一方の瓦座を停止する方針であったこと。
- ⑤その結果、筆者が（橋本秀実）が寺内の瓦座を面倒みることになったこと。

以上のように、秋田藩内にあった寺内と新藤田にあった2カ所の瓦座は、藩の財政難により、文政9年（1826）段階で、寺内は橋本秀実が引き受け「民営化」され、新藤田の瓦座はおそらく官営のまま継続されたと考えられる。今日までの考古学的調査成果からみれば、寺内の瓦座は「寺内窯跡」、新藤田の瓦座は「高梨台遺跡」であると考えられる。

本遺跡では、上述のようにCタイプの瓦は高梨台遺跡（新藤田）産と考えられ、出土量も多い。最後まで官営として運営された高梨台遺跡（新藤田）産の瓦は、久保田城跡に多く供給されていたのであろう。

### 第3節　調査地の利用状況について

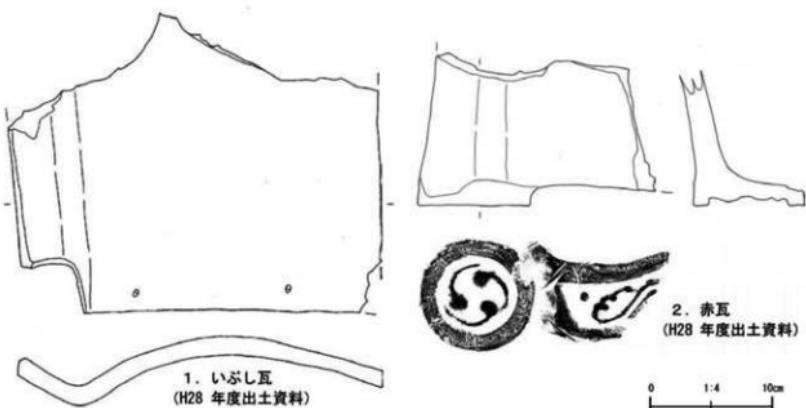
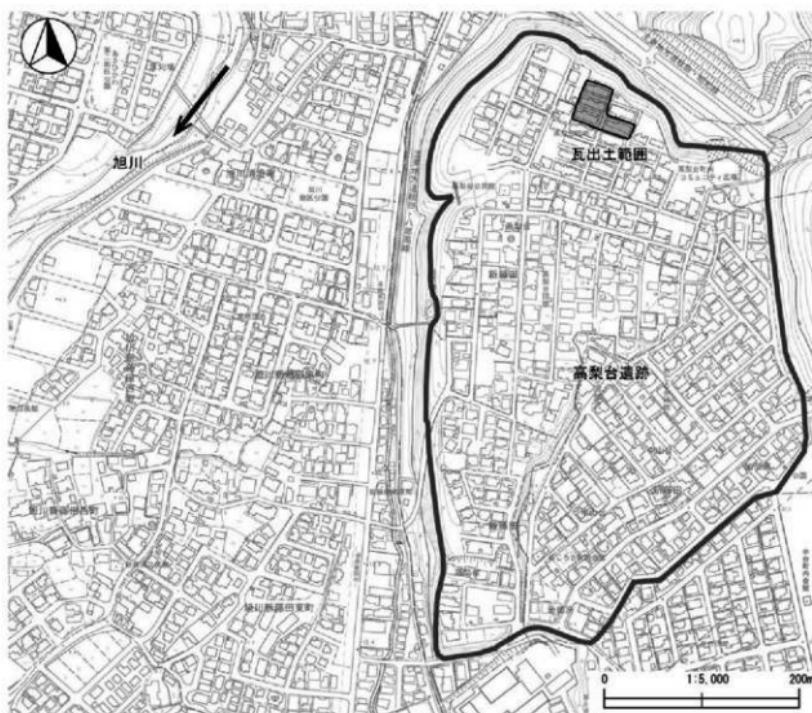
本節では、はじめに本調査で発見された土星が久保田城のどの部分にあたるのかを検討し、次に旧地形と久保田城築城の際の縄張りの関係について検討し、最後に調査地における利用状況の変遷について整理する。

第3章第3節で述べたように、A区において土星が発見された。土星は南北約11.3m、東西13.7mの範囲で、高さ約3.2mが確認された。北側の土星裾部は確認されたが、西側と南側の斜面部は削平されており、確認できなかった。したがって土星の南北幅は不明である。また、土星上に櫓状建物などの遺構は確認できなかつた。

第17・18図は、正保元年（1644）「出羽国秋田郡久保田城絵図」（国立公文書館蔵）と秋田市都市計画図と重ね合わせたものである（註3）。今回の調査で発見された土星は、三の丸の南端の土星であることが改めて確認することができる。より詳しくみると、調査区の付近に櫓状建物が描かれている。本調査で発見されたA区の土星は、基本的には東西方向の土星であるが、A区北東隅の土星裾部はやや南側に屈曲している様子が確認できた。絵図では櫓状建物の南側の堀は北側にやや突出しており、櫓状建物の東側で土星が南に屈曲している様子が描かれている。これらのことと総合して考えると、本調査区の特にA区は、三の丸南端における櫓状建物の地点であると考えられ、櫓状建物西側の土星が屈曲する部分を含んでいると考えられる。土星上に遺構は確認できなかったが、近現代の搅乱により失われてしまった可能性がある。

なお、前節でみたように本調査地点では、瓦が多く出土した。調査地点の久保田城における位置を考慮すると、これらの瓦はこの櫓状建物に葺かれていた瓦の一部である可能性が高く、こうした建物があったため多くの瓦が出土したといえるだろう。

また、B区では近世の堆積層は既に削平されてしまっていたが、サブレンチ等でV層の旧表土・地山ローム層・段丘疊層を確認できた。旧地形のあり方をみると、調査地は基本的に北西から南東にかけて張り出した河岸段丘である。このことは第7図の調査前現況図の等高線に反映されている。A区の土星がある部分が



第16図 高梨台遺跡における瓦出土位置および出土瓦（秋田市教育委員会 2017・2018）



第17図 正保元年(1644)「出羽国秋田郡久保田城画図」(国立公文書館蔵)と都市計画図の重ね図



第18図 正保元年(1644)「出羽国秋田郡久保田城画図」(国立公文書館蔵)における調査区の位置

最も高く平坦になっており、調査区南東部付近で、V-5・6層の段丘疊層が急激に落ち込んでおり段丘崖になっている。絵図との対応でいえば、B区は土壘の斜面部にあたり（第18図）、B区南側の堀は、旧地形の観点からみれば段丘崖の下にある。また、調査区の南側は絵図でみればやや北側に突出した堀となっている。このような堀の形状は、旧地形の観点からみても整合的である。すなわち、調査地点付近の旧地形は北西から南東に張り出す河岸段丘であるとすれば、A区南側にも段丘崖が存在していると考えられ、堀として縄張りせざるを得なかつた可能性がある。

久保田城跡は旭川が形成する河岸段丘を巧みに利用した縄張りを行っていることが知られているが、本調査地点における三の丸と土壘と堀の縄張りについても、同様のことがいえるだろう。

このようにして、調査区で発見された土壘は17世紀初頭の築城当時に構築され、その後土壘北側には土壇が堆積していった。III-17層を境に第III層下層は18世紀、第III層上層は19世紀前半の堆積であると考えられる。その後、明治以降の近代にさらに土壘の北側は埋め立てられ、A区は平らな宅地となったものと考えられる。昭和初期以降に土壘の上部に大きな擾乱が開けられ、再び埋められる。昭和20～30年代に秋田駅前の堀が次々に埋め立てられるが、このような時期に埋め立て用の土として土壘を削平した可能性がある。B区にも存在していたのであろう土壘も同時期に削平された可能性がある。その後、A区は土壘の頂部を基準とした高さで、B区は旧地形面の高さでそれぞれ宅地として利用されてきた、という土地利用の変遷を復元することができる。

#### 第4節 おわりに

本調査における調査の結果、調査地点の久保田城跡について下記の3点を調査成果としてあげることができる。

- ①A区において南北約11.3m、東西約13.7mの範囲に、高さ約3.2mの久保田城跡創建期の土塁が発見された。土塁北側の裾部は確認できたが、西側と南側は削平されており確認できなかった。土塁北側裾部はやや南側に振れる様子が確認された。土塁頂部には昭和初期以降に大きな搅乱が避けられており、土塁北側には土砂が堆積しており、18世紀～19世紀前半の近世には徐々に土砂が堆積し、近代以降はさらに埋め立てられ、土塁頂部の高さで平坦面が形成され、宅地として利用されてきたことが確認された。B区では土塁は既に削平されており、旧地形の高さで宅地として利用されていたことがわかった。
- ②絵図等との検討により、調査地点は三の丸南端の土塁部分にあたり、調査区は櫓状建物が存在した地点であると推定された。また、調査区からは、高梨台遺跡（新藤田）産と推定される瓦が多く出土し、付近にあった櫓状建物に葺かれていた可能性がある。
- ③調査地の旧地形は、北西から南東に張り出す河岸段丘で、段丘状に土塁、段丘崖の下を堀にしていると考えられ、付近の堀の形状に影響を与えていた。このような地形を巧みに利用した久保田城の縄張りの一端を知ることができた。

#### 第4章註

註1：肥前系陶磁器については、肥前産のものを主として、それに直接影響を受けた周辺及び地方窯のものも含め「系」として含めた。また、肥前系陶磁器の時期区分は大橋（1989）および九州近世陶磁学会（2000）に従い次のとおりとした。

I期 1580～1610年代（I-1期 1580～1594年頃、I-2期 1594年頃～1610年代に細分）

II期 1610～1650年代（II-1期 1610～1630年代、II-2期 1630～1650年代）

III期 1650～1690年代

IV期 1690～1780年代

V期 1780～1860年代

なお、上記区分に限らず、年代を絞り込める場合は、その年代を並記した。

註2：第16・17表の瓦は調査区から出土したもの全点を扱った。

註3：第17・18図の「出羽国秋田郡久保田城画図」は、国立公文書館デジタルアーカイブでオープンデータとしてCC（クリエイティブコモンズ）ライセンスにおける「CC0 (CC0 1.0 全世界パブリック・ドメイン提供)」で公開されているものを利用した。

URL : <https://www.digital.archives.go.jp/img/L/697858> 「出羽国秋田郡久保田城画図」

#### 第4章引用・参考文献

- 秋田市教育委員会 1991『寺内焼窯跡－寺内小学校建設に伴う近世陶磁器・瓦・煉瓦窯跡の発掘調査－』
- 秋田市教育委員会 2017『平成28年度秋田市遺跡確認調査報告書』
- 秋田市教育委員会 2018『平成29年度秋田市遺跡確認調査報告書』
- 五十嵐芳郎 1967『高梨台 遺跡とその資料V 秋田市新藤田字高梨台遺跡』
- 井上隆明・相沢清治 1972『八丁夜話 第一～第七』『第二期 新秋田叢書 第一巻』歴史図書社
- 大橋康二 1989『肥前陶磁』ニューサイエンス社
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会10周年記念－』

## 写真図版



①久保田城跡遠景（南東から）



②久保田城跡空中写真（上が北），国土地理院（昭和23年（1948）撮影：U1022-CA-3）



①調査前の状況（南東から）



②A区完掘状況（北から）



③A区北側土壁法面の状況（北東から）



④A区土壁頭部の状況（北東から）



⑤A区土層ベルト土壁法面土層断面（東から）



⑥A区土層ベルト土壁盛土土層断面（北東から）



⑦A区西壁土壁法面部土層断面（東から）



⑧A区土層ベルト搅乱土層断面（東から）



①A区土壌断面トレンチ土層断面（北東から）



②B区検出状況（西から）



③B区完掘状況（西から）



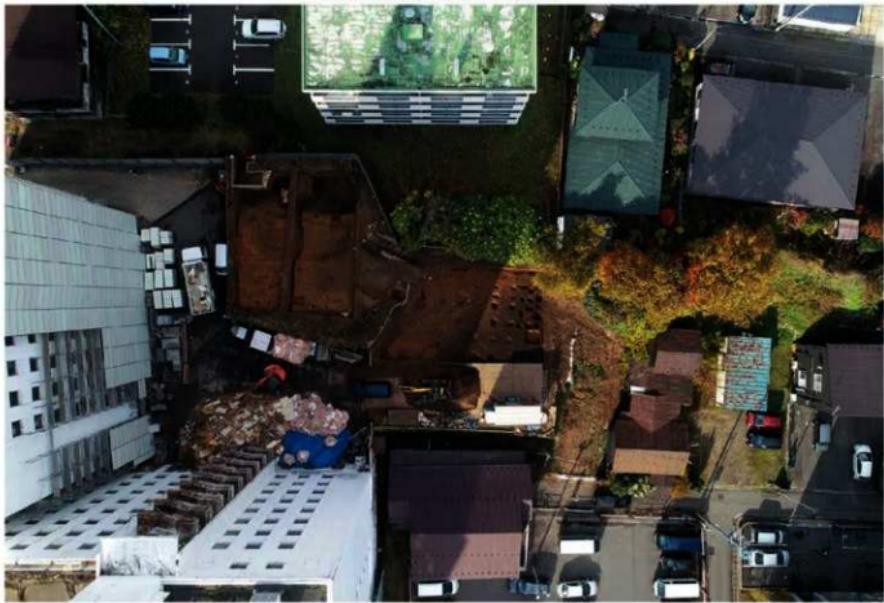
④B区下層断面トレンチ土層断面（南東から）



⑤調査区全景（上が北）



①大手口推定地と調査区（南東から）



②調査区周辺の現況と地形状況（上が北）



1 第I-1層、2 第II-⑨-⑩層、3・4 第II-⑩-⑪層、5・6 第II-⑫層、7 第II-1層  
8・9 第II-11・12層、10 第II-13層、11～15 第II層 16・17 第III-9層 (7はS=1/1、その他はS=1/2)

出土遺物 (1)

図版 5



18 第III-14層、19~26 第III-17層、27 第III-20層、28・29 第III-21層 30・31 第III-22層  
(すべてS=1/2)

出土遺物（2）



33



34



35



36



37



38

32・33 第III-22層、34・35 B区第I-2層、36 第II-1層、37・38 第II-13層  
(32・34・35±S=1/2, 33±S=1/1, 36~38±S=1/4)

出土遺物（3）

38



39



40



41



42



43



45a

44



45b

47



46



47



48

39 第II-13層、40 第II-23層、41~45 第II層、46 第III-9層、47・48 第III-22層  
(すべてS=1/4)

出土遺物(4)

## 報告書抄録

ふりがな	くぼたじょうあと							
書名	久保田城跡							
副書名	千秋久保田町マンション建設工事に伴う発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	神田和彦・佐藤好司・石田純子							
編集機関	秋田市教育委員会(秋田市観光文化スポーツ部文化振興課)							
所在地	〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号 TEL: 018-888-5607 FAX: 018-888-5608							
発行年月日	2022年4月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
くぼたじょうあと 久保田城跡	あきたしせんしゅうくぼたまち 秋田市千秋久保田町 4-173、4-174、4-175、 4-47	05201	39 度 43 分 5 秒	140 度 7 分 33 秒	20210920 ~ 20211130	312	マンシ ヨン 建設 工事	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
久保田城跡	城郭	近世	土塁1基	陶磁器・瓦・石製品・錢貨	三の丸南端の土塁を検出した。			
要約	<p>A区において、三の丸南端の土塁が発見された。土塁北側裾が確認され、斜面部に土層が堆積しており、18世紀～19世紀前半の近世には徐々に堆積し、近代以降はさらに埋め立てられていることが判明した。</p> <p>絵図等の検討により、調査地点は櫓状建物が存在した地点であると考えられ、出土した瓦はこれに関わる遺物である可能性がある。</p> <p>調査地の旧地形は北西から南東に張り出す河岸段丘であり、段丘状に土塁、段丘崖の下を堀として利用しており、調査地付近の堀の形状に影響を与えており、地形を巧みに利用した久保田城の調張りの一端を知ることができた。</p>							

---

---

秋田市  
久保田城跡

—千秋久保田町マンション建設工事に伴う発掘調査報告書—

印刷・発行 令和4年4月28日

編 集 秋田市教育委員会

(秋田市観光文化スポーツ部文化振興課)

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

TEL 018-888-5607 FAX 018-888-5608

印 刷 城島印刷株式会社

---